

# 愛知医科大学学報



令和3年度医学部卒業記念品  
ハナミズキ (大学本館西側芝生)



令和3年度看護学部卒業記念品  
リヤドロ「サバンナの命」(医心館3階)

(関連記事14頁)

＝ 第166号 ＝

2022.4月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス  
[www.aichi-med-u.ac.jp](http://www.aichi-med-u.ac.jp)

## ■ 主な目次 ■

就任ごあいさつ	2
令和4年度入学式	8
令和3年度卒業証書・学位記授与式	11
本学創立50周年記念ロゴマーク制作及び 記念サイト公開	15
令和4年度予算大綱	17
主な役職者の改選	32
退職を迎えて	36
教育・研究最前線	75
Smile ～スマイル～	77



### —愛知医科大学の更なる 発展をめざして—

理事長 祖父江 元

令和4年1月28日（金）の理事会で愛知医科大学理事長に再任致しました。改めてその責任の重さを痛感致しますとともに、皆さまのご支援に感謝申し上げます。前回の就任のごあいさつでは、「人とイノベーション」、「自己実現」、「連携」、「本学の独自性」などをキーワードとして申し上げました。その背景には、「疾病の克服をめざしてヒトの未来を拓く」という目標があります。この考え方は今も変わっていません。ただこれを実現するために、様々な具体的方策を行ってまいりましたし、これからも行っていきたくと考えております。また、本年は本学の創立50周年に当たっており、50周年の記念事業とともに、これらの具体的な方策を進めていきたくと思っております。

まず第1に、財政基盤が徐々に確立してきたことは大変ありがたいと思っております。この3年間コロナ禍にあっても経常収支が毎年着実に伸びています。特に、後に述べます種々の活性化イノベーションの仕込みを進めながら伸びているという点は重要と思えます。改めて皆さまのご尽力に感謝申し上げます。今後も人材開発とイノベーションを進めて参りますので何卒宜しくお願い申し上げます。

第2は、経営戦略推進本部の設置と発展です。これは理事長直轄で部局を越えた問題、新規のイノベーションや組織改変等を比較的短い時間で進めるため、私の就任の年に立ち上がった組織ですが、これまでにやってきた或いは今後の計画のイノベーションやシステム改革は、ほぼこの推進本部で立案、計画、実施されてきたもので、今後も引き続き発展させていきたくと考えています。少し個別の事例を挙げてみます。

令和3年4月に開院しました岡崎の愛知医科大学メディカルセンター（分院）は、羽生田正行病院長の下、地域の中核病院として発展しており、今後、専修医の研修病院としても発展していただきたいと思います。

愛知医科大学メディカルクリニックは、38年前からの初期の目的を達成し、以前から抜本的な改変が望まれていました。これを受けて、令和4年7月に開院予定の愛知医科大学眼科クリニック MiRAIは、株式会社メニコンとの近視進行予防の共同研究拠点と緑内障を中心とする日帰り手術ラボの拠点を作るもので、新し

い産学連携の眼科クリニックとして発展できると考えます。

令和3年12月27日に移転・開設した日本造血細胞移植データセンターは、細胞移植に関する全国の12万例の患者データを集積するセンターで、世界的にも日米欧の3局の一つになっています。本学の連携大学院でもあり、今後のビッグデータを基盤とする臨床研究の拠点として更なる発展を期待したいと思います。

リハビリテーション医療やがん医療の推進、看護の中のNPの博士課程の創設などもめざしていきたくと思っております。

また、本学の創立50周年を契機に今後の更なる展開に向けた先進医療研究棟の構想もスタートさせていきたくと考えています。これは、今後の世界を見据えた診療・教育・研究の場として、また、産学の連携の場としての展開を見据えて知恵を出していきたくと思っております。

働き方改革、救急体制改革、地域医療連携推進、学生・医師養成教育改革等いくつかのシステム改革も本学に特化した形で進んできており、今後、更に具体化していきたくと考えています。

更にもう一つ、医学研究の流れですが、これは先の学報でも少し報告をしましたが、特に臨床研究について、疾患の情報そのものを使ったビッグデータの仮説抜きの数理解理解が新しい知見を生み出す流れが大きくなってきています。幸い本学には、日本造血細胞移植データセンター、加齢医科学研究所の神経変性疾患の死後脳バンク、肺胞タンパク症、泌尿器系がん、神経疾患iPS細胞などのバイオリソース、研究創出支援センターのバイオリソースなど多くのバイオ・データリソースが存在しており、最近では国際的な共同研究として世界のトップジャーナルへの発表がいくつも出てきております。今後の本学の臨床研究、特にビッグデータ型共同臨床研究の方向として重要ではないかと感じています。

愛知医科大学は今、今後の更なる発展に向けた変革の時期、仕込みの時期を迎えているように考えられます。皆さまには、是非ともご支援賜り、今後の発展に結び付けていきたくと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



### —新時代に相応しい 品格ある医療人育成—

医学部長・医学研究科長 笠井 謙次

令和4年4月から2年間の医学部長・医学研究科長  
拝命に当たり、ごあいさつ申し上げます。

昨今の医学教育機関は、医学教育分野別評価は勿論、  
大学基準協会による機関別認証評価、病院機能評価を  
始め卒後臨床研修評価機構など様々な評価を受審し、  
常に教育の向上と質保証を行うことが求められていま  
す。一方でSDGs, Society5.0・第4次産業革命、人生  
100年時代、グローバル化、地方創生を柱とした「2040  
年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11  
月文部科学省中央教育審議会）では、大学個々の強み  
や特色の明確化、多様性促進が強調されています。事実、  
医学教育分野別評価では、質保証を行いつつ建学の精  
神を踏まえた大学の特性の強化こそが重要であるとさ  
れています。

「医学教育の国際基準は、必要最低限のものを示して  
いるに過ぎず、それぞれの医学部における独創的な取  
り組みを排除するものではない。むしろ、理念、目標  
を活かし、日本や地域の文化や伝統に根を下ろし、独  
自の使命を果たすために多くの取り組みがなされてい  
ることを踏まえ、更なる発展を奨励するものである。」  
(医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.34より抜粋)

そして、「評価」の次には「選別」が始まります。医  
学教育機関は国家試験合格率や教育内容、診療実績、  
患者評価、更に研究実績や公的・私的団体による様々  
な格付けに基づき、受験生、患者、地域から選別を受  
ける立場になっています。また、postコロナに際し医  
師過剰状態論が再燃し、少子化と相まって医学教育機  
関は国からも選別されかねない時代になります。

こうした厳しい時世の中、本学は令和4年4月1日  
に創立50周年を迎えました。この機に学是「具眼考究」  
及び「新時代の医学知識、技術を身につけた教養豊か

な臨床医、特に時代の要請に応じて地域社会に奉仕で  
きる医師を養成し、あわせて医療をよりよく発展向上  
させるための医学指導者を養成する。」という建学の精  
神・使命を改めて振り返り、次の半世紀に向けて本学  
医学部・医学研究科が社会に貢献できる道、即ち優れ  
た教育プログラム、人材育成、研究開発、地域連携を  
より進化させなければなりません。そのため、医学部長・  
医学研究科長2年間の任期中に、以下を優先的に進め  
たいと考えています。

- ① 医学教育の充実：医学教育分野別評価2巡目に対応  
した継続的な教育改善とともに、8年間（医学部6  
年間＋初期臨床研修2年間）を見通した実践的医学  
教育を充実させます。ここでの「実践的」とは「実  
利的」の意ではありません。医学生が多感な学生時  
代を経て教養ある成熟した社会人になるよう、また、  
自ら成長し予測不可能な時代に対応、更には牽引で  
きるよう、新時代に相応しい品格ある医療人育成を  
行います。
- ② 入学者選抜制度改革への対応：公平公正な入試業務  
を継続しつつ、地域枠など国の施策変更に対応しま  
す。また、本学の魅力をより積極的に発信し、受験  
生の確保に努めます。
- ③ 医学研究科・研究活動の活性化：佐藤元彦副学長（特  
命担当）と協働し、学内研究環境の向上をハード・  
ソフト両面から図ります。
- ④ 情報発信：本学の実績や魅力を社会に向かってより  
積極的に発信したいと考えています。

こうした活動には全ての教職員、学生のみならず、  
同窓会、地域の方々、関係諸機関のご協力が不可欠です。  
皆さまのご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。



### 一常に挑戦し続ける 看護学部でいたい

看護学部長・看護学研究科長 坂本 真理子

このたび、看護学部長を再び拝命致しました。これまでの皆さまの温かいご支援とご協力に心から感謝申し上げます。激動する社会の中で看護学部の発展を担う重責に身の引き締まる思いですが、今一度初心に戻り、力を尽くす所存です。

思い返しますと、令和2年度からの2年間は、新型コロナウイルス感染症対応に追われた月日でした。初めて直面する課題も多く、ともに乗り越えてきた教職員とは同志のような繋がりを感じております。未だ収束の見通しが立たない状況でありながら、社会は徐々にウィズコロナに向けて動こうとしています。臨地実習での厳しい制約は、患者さんや住民の皆さまのもとに足を運び、時間と空間を共有し、ともに考えるという看護の関わりに、大きな課題を突き付けました。しかし、限られた条件の下でも、教職員の創意工夫と努力により、最大の教育効果を上げられることを示していきたいと考えております。

看護学部長として、これからの2年間で特に取り組んで参りたいことを三点に絞り、ご説明申し上げます。まず、教育に係る人材育成の強化です。看護学部では、日頃から教員能力開発活動に積極的に取り組んで参りました。若手教員と中堅期の教員が協力して教育力を向上させる取り組みは、本学部の特徴的な取り組みとして発展しています。今後は、次世代リーダーの育成に向けても積極的に取り組みたいと思っております。看護学研究科では博士課程設置を検討しており、研究力と教育力を併せ持つ優秀な教員の確保と育成は必須のものと考えております。

次に、看護学における教育の質保証への取り組みです。保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、令和4年度から新しいカリキュラムを導入しました。新カリキュラムは、看護学部と地域や大学病院との安定した関係のもとで創られた教育環境を大いに生かしたものとなっております。しばらくは旧カリキュラムと新カリキュラムが並行して走るようになりますが、学生たちの充実した学びに向けて、堅実かつ効果的な運営に取り組んでいきます。令和5年度には日本看護学教育評価機構による看護学分野別評価を受審致します。現在は、外部の審査に耐えうる教育体制の整備に向けて、自己点検と改善を進めております。既に外部委員による評価の仕組みを導入しており、自組織だけでなく外部者の評価を真摯に受け止め教育改善に活かす組織として努力を重ねていきます。

最後に、看護連携型ユニフィケーション推進事業への取り組みです。本事業は令和3年度に看護学部と本院看護部が協働で開始した事業ですが、部署を越えて、お互いの人材育成や教育・看護実践の向上を図ることを目的としています。今後、本事業を看護学部と本院看護部の特色の一つとして定着させていけるように、効果的な事業の在り方を検討し、発展させていきたいと考えております。

皆さまの一層のご支援ご協力をお願いするとともに、看護学部長の再任に当たってのあいさつとさせていただきます。



### —教務部長に就任して—

医学部教務部長 鈴木 耕次郎

令和4年4月1日から、伊藤恭彦医学部教務部長の後任として拝命しました。私は平成29年1月に本学に着任し、平成30年4月に放射線医学講座の教授となりました。本学での在籍期間は5年とまだ長くはありませんが、令和元年度には若槻明彦前医学部長の下で日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価受審に委員として取り組み、本学での医学教育の現状、医学教育の在り方、今後の教育課題などを数多く学ぶ機会がありました。また、令和3年度は医学部教務部次長として、コロナ禍での教育と実習の機会を確保することの難しさを実感しました。

本学の医学教育の現状を踏まえた現在の課題として、①コロナ禍における教育と実習の質と量を担保する、②留年生を減少させる、③医師国家試験の合格率を上昇させる、ことを強く意識していきます。コロナ禍での医学教育も既に2年が経ちました。当初は講義や実習が試行錯誤的に行われ、Web講義を併用した分散登校による入校制限を設けることで感染拡大を防ぎながら講義と実習が行われています。しかしながら、コロナ禍前の教育と比べて十分であるとは言いがたく、実際に学生が大学に登校して学内で教育を受ける機会を増やしていく必要性を感じています。特に、入学直後の1学年次は、大学での勉強方法を修得して医学を学び始める大切な時期です。現在1～4学年次では分散登校が行われていますが、感染状況等を踏まえながら感染拡大の防止と両立して全ての学生が大学で学修できる機会を少しでも増やしていきたいと思います。また、医学教育センターとともにカリキュラムの見直し

や学修支援も行い、学生をサポートして留年率の減少も目指します。

令和5年度には4学年次の共用試験であるCBTとPre-CC OSCEが公的化され、医師国家試験もCBT化に向けて動き始めています。医師国家試験に合格するには単なる医学的知識の修得のみならず、診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）で修得する内容の重要性が増しています。実習や試験では学生自身の努力が最も重要なのは言うまでもありませんが、学習成果基盤型教育として臨床能力、技能、態度などをクリニカル・クラークシップで効率よく修得でき、学生の学修モチベーションを上げさせるのも教員の職務であります。その点で教員の努力と意識改革も必要であると感じています。

医師国家試験に関して、本学の直近5年間での新卒合格率は95%前後を推移しています。令和3年度の新卒合格率は94.1%で全国平均の95.0%を下回っており、私立大学30校中21位の順位でありました。この状況を踏まえて、令和4年度から6学年次と5学年次を対象に、新たに国試対策プロジェクトが動き始めています。このプロジェクトにより、本気で新卒100%の医師国家試験合格を目指しています。

若輩者ではありますが、笠井謙次医学部長の下で本学の医学教育が少しでも良くなるように医学部教務部長の責務を全うする所存です。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



### —学生部長に就任して—

医学部学生部長 高村 祥子

2期4年に亘る鈴木孝太医学部学生部長（衛生学講座・教授）の後任として、令和4年4月1日から拝命しました。8年前に感染・免疫学講座の教授として本学に着任してからは主に教務部委員として学生指導に携わってきましたが、学生部に携わるのはほとんど初めてです。笠井謙次医学部長や学生課の方々、学生生活委員の先生方、鈴木耕次郎医学部教務部長等あらゆる方々にご支援いただきながら進めて参ります。一所懸命頑張りますので、保護者の皆さま始め関係者の皆さまのご理解とご協力の程、何卒宜しくお願い致します。

医学部学生部は、主に二つの大きな役割を担っています。一つ目は、学生生活委員会を介した指導教員制度制定、課外活動や医大祭に関する指導・支援、学生の表彰などです。もう一つは、課外活動において問題が生じた場合に課外活動評価委員会を開いて、対処することです。

今年度から色々な制度が変わりました。まず、指導学生制度ですが、これまでの担当教員制から講座指導制へと変わりました。これは、各講座が2～6学年次生を指導講座として担当し、教員と学生、また、学年を超えた学生の交流を進めること、更に、モチベーションが特に高い学生に対してカリキュラム外での研究や早期の臨床体験に繋がることを目的とするものです。このため、学生一人ひとりの希望を基に配属講座を決定し、その結果3学年以上に跨って配属を決定できた46講座に、指導をお願いすることになりました。コロナ禍で閉じこもりがちな学生への対策として、早目に各講座で指導学生との顔合わせ会を行って、課外活動

以外でも上級生と下級生が繋がることのできる良い機会になればと考えております。

また、前任者の退職に伴う学生生活相談員やハラスメント相談員も新たに決定しました。本学卒業生で女性医師の先生方が快く引き受けてくださり、心理学の専門家である宮本淳医学部学生部次長とともに相談に当たっていただけることになりました。今後は、場合によって保健管理センターとも協力して行っていく予定です。

今年度は、西日本医科大学体育大会が浜松医科大学主催で開催される予定です。それに向けて課外活動や練習試合も盛んになっております。しかし、感染対策をとりながらの活動であっても時に停止を迫られる現在の状況は、課外活動を一所懸命やりたい学生にとって大変酷なことだと思えます。なお、今年度は創立50周年記念式典の開催も予定されており、連携して本学医大祭も実施できればと思っておりますが、他大学と同様でなかなか予断を許さない状況です。なんの縛りもなく自由に活動できる日が一日も早く来ることを心から願ってやみません。

昨今は、コミュニケーションを苦手とする学生が増えたように思います。このため、学修支援方法も変更や追加が行われ、これまで以上に大学を挙げて学生支援に取り組むようになってきています。医学部学生部長としては、日々の講義のみならず、課外活動や学生指導、医大祭の話し合いなど様々な接触の機会を通じて学生の心の声を汲み取ったり、意欲を高めたりしていきたいと思えます。



### —変化の著しい時代に対応し、 看護師として生き抜くことが できる学生を育てること—

看護学部教務学生部長 高橋 佳子

令和4年4月1日から看護学部教務学生部長を拝命しました。看護の在り方に転換期を迎えた今、看護教育をいかに推進すべきかについてまとめました。

#### ○パラダイムシフトに求められる看護の場

間近に迫る2025年・2040問題に対応し、看護職は医療機関に限らず、在宅や施設等の多様な場での多職種連携や、対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められています。こうした社会的要請に応答し、日本看護系大学協議会JANPUでは、コア・コンピテンシーを基盤とした教育カリキュラムの普及、看護系大学における教育課程の自主的構築を可能にする看護学モデル・コアカリキュラム、看護学教育分野別評価機構の設立、更に、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正（令和2年公布）において看護教育カリキュラムが拡充され、輩出される看護学生の質保証を成し遂げていこうとしています。

本学部でも、こうした情勢を踏まえ令和2年に改正カリキュラムに向けたワーキングが発足し、今年度から令和4年度カリキュラムとして始動しました。

#### ○令和4年カリキュラム始動

令和4年カリキュラムのコア・コンセプトは、建学の精神、学是、看護学部開設の主旨、教育理念を基盤とした ①豊かな人間性Humanity, ②地域性Community, ③国際性Internationality, ④看護実践能力Professionalismの四つを掲げ、これまでの臨床優位の教育・実習体制を、地域basedに変換し、変化の著しい時代に対応できる（看護師として生き抜くことができる）実践力や汎用能力を備えた看護学生の育成を目指すカリキュラムとしました。このコンセプトには、看護の対象となる当事者

から学ぶという思いも込められています。

看護の役割を拡大するにしても、実践が質的に変わっていくにしても、それを支えているのは、やはり看護の知識と技術、専門職者としての価値観です。もちろん、哲学があり、理念があり、人間観を形成する教養と、医療者であるという特別な倫理感覚、これらを基盤として外すことなく看護学の「質」を常に監視していくことは、どの時代にあっても看護学教育としての責務です。また、看護学教育は教員だけでなく、臨地の看護師との共同作業でもあります。看護を語る熱い思いは、看護学生を育てる重要なエネルギーです。だからこそ、教育の場でも臨地の場でも、学生に関わる看護職者は堂々と看護を語ってほしいと思うのです。これもまた、当事者から学ぶという意味です。

#### ○変化する社会の中で新たな答えを探す作業

社会の変化の中で、今までにない経験を積むことになる看護界の変化は、看護教育に携わる教職員も、その変化の中で新たな答えを探しにいく作業が必要です。先人の築いた看護教育の価値思考を“古い価値観”としないためには、新たな社会や教育の潮流を受け入れ、融合させていくことが、これからの看護学教育の「質」を創り上げていくことに繋がると思っています。

4年間で学位授与方針を達成できる看護学部で在り続けるためには、目まぐるしい変化に即応するスピード感をもち、新しい変化を恐れずに教職員一人ひとりが教育の改革と質保証に取り組んでいくことができる体制を構築する必要があります。そのために微力を尽くしたいと思います。

# 令和4年度愛知医科大学入学式

## 医学部・看護学部入学式



令和4年度入学式が、令和4年4月5日（火）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

式は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学生のみでの出席とし、座席は間隔を空けて着席し、ホール内を常時換気するなどの対策を行い、プログラムを短縮しての実施となりました。また、保護者の皆さま始め関係者の方々にも式典の様態をご覧いただけますようライブ配信を併せて行いました。

始めに、祖父江元 学長から告辞があり、223名（医学部116名、看護学部107名）の新入学生を代表して医学部の丹羽凌大さんから、「学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い、本学学生としての自覚を持ち勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。

最後に、看護学部4学年次生の網花名さんから、「入学式を迎えられた皆さんは、今、喜びや希望に満ち溢れておられることと思います。本学での生活は、これからの皆さんの長い人生において考えると、ほんの短い時間に過ぎないかもしれません。しかしながら、今日から始まる大学生活において、皆さんは多くの人々と出会い、様々な経験を得ることとなるでしょう。楽しいこと、嬉しいこと、時に

は辛いことや困難に直面することもあるかもしれませんが。そんなときは、一人で抱え込まず、信頼できる先生方や仲間に頼ってみてください。皆さんの強い味方となるはずです。一昨年の新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、本学においても慎重を期した感染対策や活動制限をもとに講義や実習、部活動が行われている現状にあります。コロナ時代を経験して、人との繋がりや、当たり前のような日常のありがたさを感じる今だからこそ、皆さんにはお互いを大切に、そして一日一日を大切に、かけがえない生活を過ごして欲しいと思います。できないことや思い通りにならない環境ばかりに不満を抱くのではなく、前向きに、そして最大限楽しむためにも自分自身が積極的に行動を起こすことを大切に、学業はもちろん、様々な学びを深めながら、自らのありたい姿を育み、良き医療人へと一歩一歩近づいていってください。在校生一同、皆さまの学生生活が有意義で、実り豊かなものとなることを願います。」と歓迎の辞が述べられ、午前10時30分頃に式は終了しました。



宣誓を述べる丹羽さん



網さんからの歓迎の辞

## 学長 祖父江 元



本日は、医学部・看護学部の入学試験を見事パスされ、ここに入学式を迎えられた皆さん、学長として、心よりお祝い申し上げます。誠におめでとうございます。新型コロナウイルス感

染症感染拡大の影響で、少し変則的な入学式となりましたが、皆さんの晴れの入学を心からお祝いしたいことには変わりはありません。なお、今年は愛知医科大学創立50周年に当たります。令和4年11月3日の開学記念日を中心に、種々の記念事業を予定しております。先人のこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けた1年になればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、これから皆さんには、それぞれ4年間、6年間の大学生活が待っていますが、何をしようと思っ

ていますか？色々な思いを描きながら今、皆さんはここに居ると思いますが、ここでは三つの点を述べてみたいと思います。

第1は、医師国家試験、看護師国家試験が待っていることです。これを見事にクリアしてもらいたいと思います。それをクリアすべく努力する。これは、今後の大学生活の重要なパートです。指導のスペシャリストがそれぞれ居ますので、サポートを得ながら頑張ってもらいたいです。看護師国家試験の合格率は、今年も新卒者では100%の合格率でした。大変素晴らしいと思います。一方、医学部の医師国家試験の合格率は、この数年、皆さんの努力で95%前後なのですが、昨年は98%を超え、私立医科大学の中では全国第3位、国公私立大学全体でも第10位でした。しかし、今年は残念ながら94%と少し下がってしまいました。95%合格というと100人中95人の合格となりますから、数字から見ると簡単に思うかもしれませんが、実際は全く甘くないです。国は、今後少しずつ医師過剰な時代に移行していくと考えており、国家試験自体のやり方をより実践的な医療に変えていこうとしています。今後は、何らかの教育システムの改変が必要です。例えば、近年の自治医科大学は、毎年100%の合格率で全国第1位なのですが、全寮制のため学生は24時間大学におり、弱

い部分はマンツーマンでスポーツ選手のような指導が行われていると聞いています。自治医科大学以外の大学でそこまで行われることは難しいのですが、本学としては、システムを大きく補強して合格率98%を目指していきたいと思います。是非、皆さんも頑張ってください。

第2は、友達を作ることです。大学の友達は、高校時と違い、職業や研究のフィールドが共通します

ので、長い付き合いになります。価値観も、より多様化してきますので、多様性ということ学びながら友達を作ってもらいたいと思います。

第3は、自分の将来の目標を考えてもらいたい。自分は将来何を指そうとしているのか。どのような人になりたいか。是非、長いスパンで将来の目標を考えてほしいと思います。自分は何をやり、何になるかを決めるのは難しいことですが、大学時代は一生の中でも又とない機会です。私自身のこととしては、大学生時代や大学院の時代に考えたことが、その後の長い時間を経て振り返ると、無意識にその方向に向かっていました。神経の病気の中には、アルツハイマー病、ALSやパーキンソン病などの神経変性疾患というものがありますが、当時、ほとんど治療法がないものであったため、何とか治療法を開発できないかと本気で思っていました。従って、何となく臨床研究者を目指していたと思います。何の因果か分かりませんが、気付いてみると自分がそのような道を歩んでいることが見えてきています。三つ子の魂百までということわざがありますが、大学生の魂百までということのように思います。大学卒業後には、研修医があり、大学院がありといった流れも作用しているかと思います。皆さんには将来に向け、大変広い選択のパラエティが用意されています。あまり広いとかえって難しいかもしれません。

私が今後重要と考えているのは、病気の「予防」です。私は今、内閣府及びJST（科学技術振興機構）が行っているムーンショット型研究プログラムのプログラムディレクターを仰せつかっています。これは何をやるのかというと、膵がん、認知症、糖尿病及びメタボ症候群といった四つの病気から、ウイルス感染症をターゲットにして未病状態を探すことで

す。未病というのは、健常から病気の発症までの間に、病気に向かって変化しているものの、まだ発症に至らない、或いは健常に戻り得るというものです。この四つの疾患の未病を明らかにし、それをターゲットに介入して予防に結びつけようというものです。これまでの医学は、病気の発症後に手を打つ、治療を考えるというのですが、発症から遡って未病の段階で予防するという事です。最初は皆さん、そのようなことはできないと言っていました。今では医学の形を変えるかもしれないと思っており、今年度の追加予算が付いたこともあって段々と本気になってきています。この予防という領域は、今後の医学の中の大きな領域になるのではないかという予感がします。私の印象では、最初から皆さんが素晴らしいと言うことは、あまり大したことではないと思います。皆さんが、「そのようなことはできない。

#### 大学院入学式

令和4年4月5日（火）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和4年度大学院入学式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程20名、看護学研究科修士課程13名の計33名の新入学生を代表して、医学研究科の吉田知加さんから、「私たちは、愛知医科大学大学院に入学を許可されました。今後、学則並びに諸規則を守り、先生方のご指導に従い本学大学院学生としての自覚を持ち、勉学に励むことを誓います。」との宣誓が行われました。

そんなバカな。」と言うことが、実は重要であるということが多く感じます。自分にとって何になりたいか、何が大事かということで将来構想を考えてみてください。

本日は、誠にありがとうございます。皆さまには、是非頑張ってくださいと思います。



続いて、祖父江元 学長から告示が述べられ、式は終了しました。

## 令和4年度職員新任式挙行

令和4年4月1日（金）大学本館たちばなホールにおいて、令和4年度職員新任式が挙行されました。

式では、祖父江元 理事長から、「私は自由度のある組織が重要だと思っておりますので、自分を表現できる、自己の実現というものを考えながら、頑張ってください。一日でも早く本学に慣れて、若い皆さんの力を発揮していただくと有難いと思っております。」とあいさつがありました。

なお、今年度の参加者は157名で、内看護職員116名、医療職員28名、事務職員13名です。



出席者による記念撮影

# 令和3年度愛知医科大学卒業証書・学位記授与式

医学部・看護学部卒業証書・学位記授与式



令和3年度卒業証書・学位記授与式が、令和4年3月5日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて挙行されました。【写真】

当日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業生のみのお出席とし、座席の間隔を空けて着

## 告 示

### 学長 祖父江 元



学長の祖父江です。本日は、医学部・看護学部の課程を無事卒業され、ここに卒業式を迎えられた皆さん、保護者の皆さん、学長として心よりお祝い申し上げます。誠にありがとうございます。

この1年間、毎日が新型コロナウイルス感染症との戦いで本当に大変だったと思います。授業は多くがWebになり、実習もあまりできなかったと思います。何よりも大学に出てきて友達と会話することができなかったと思います。今年の卒業式はコロナ第6波の中、変則的な式となりました。晴れの卒業式としては、やや残念ですが、皆さんがこの日を迎えられたことを心からお祝いしたいと思います。この卒業式を迎えられたのは、皆さんの努力もさることながら、多くの人の支えがあったからだと思います。ご家族の方々、先輩や同僚の人たち、教職員の方々、そして何よりも実習などで協力していただ

席することや、ホールの窓を全開にして常時換気をするなどの対策を行い、プログラムを短縮しての実施となりました。また、保護者の皆さま始め関係者の方々にも式典の模様をご覧くださいませようライブ配信を併せて行いました。

始めに、祖父江元 学長から、医学部卒業生102名を代表し勝又蒼穂さんに、看護学部卒業生105名を代表し池原詩菜さんに卒業証書・学位記が授与されました。続いて祖父江学長からの告辞が述べられました。

この後、在学を代表して医学部5学年次生の丹羽永理奈さんから送辞が、卒業生を代表して看護学部の池原詩菜さんから答辞が述べられ、午前10時30分頃に式は終了しました。

いた患者さんやそのご家族の方々など、改めて感謝の意を表したいと思います。これから皆さんは、社会人として、医療に携わるプロとして、新しい生活が始まります。改めて、この門出をお祝いしたいと思います。

また、令和4年度は愛知医科大学創立50周年に当たります。令和4年11月3日の開学記念日を中心に、種々の記念事業を予定しております。先人のこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けた1年になればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、お祝いのあいさつとして医学部と看護学部それぞれの卒業生に期待したいことを一つずつ述べます。まず、医学部を卒業する皆さんですが、General physicianの視点について述べたいと思います。これから2年間の初期研修を終え、それぞれが志望する領域の専門医研修に入ると思います。専門医研修は大変重要ですが、同時に広く患者さんの病状を見るGeneral physician (GP) の視点も是非持ってほしいです。このGPの視点の涵養は、今後の医

学教育の重要課題になっています。その理由は沢山あるのですが、例えば、患者さんを診た時に、どのように各診療科へトリアージすれば良いか、どのように専門医に繋がれば良いのかという能力がより必要であると指摘されています。また、患者さんの高齢化で、一人の患者さんが複数の疾患を持つことが多く、GP的な力が大変必要になってきているのです。加えて、疾患との共存期間が大変長くなっており、病態の変化に対応しなければなりません。例えば、パーキンソン病を例にすると、経過20年以上のヒトが大変多くなっており、認知症や自律神経障害や呼吸不全・循環不全など多彩な症状が出てきます。更には、救急などの場面で、まさにGPとしての力が必要です。結局は、自分の専門を超えてフレキシブルに患者さんに対応できる医師としての基本能力ということになると思います。

一方、現在の医学教育が、どちらかという専門医型教育になっていて、GPとしての教育が少ないということが言われています。例えば、以前内科は、第1内科、第2内科、第3内科という大枠で括られており、診療科の中に色々な領域が共存していたのですが、平成12年以降、臓器別の講座再編が行われてからは、研修の早い時期から臓器別の専門医研修になっているように思います。GP的能力の必要性が社会的にも叫ばれ、現在これを克服する方法が色々と考えられていますが、上手く行っていないのが実状です。私は、例えば救急、特に2次救急の研修が一つの重要な方向になるかもしれないと思っています。2次救急は、様々な診療科の患者さんが受診してきます。専門領域を越えた研修が可能であり、ある一定期間、例えば3ヶ月位の研修を重ねることによって、救急の素養とともにGPとしての視点が備わるのではないかとされています。実際に、そのような研究の結果も出ています。私も振り返ってみて、初期研修、後期研修の時期が大変重要と思います。本学でもそれが可能なシステム作りを進めたいと思っていますが、是非皆さんには、今後の研修の中でこのGPの視点を持つことを心掛けていただきたいです。

看護学部を卒業する皆さんには、まず看護師の職種は近年大変広がっていることを理解してもらいたいです。高度化手術、急性期医療、慢性期医療、地域医療、或いは治験・行政・教育の領域まで医療のニーズに合わせて大きく広がってきています。このうちNPについて、少し紹介します。NPは、Nurse Practitionerの略で、従来医師しか行うことができなかった医療行為を一定の条件で行うことができ、手術部、麻酔科、外科領域などの特化した領域で力を発揮できる看護師です。2年間の修士課程が必要となりますが、欧米などでは医療を進める上で、無くてはならない職種になっています。本学のNPについては、昨年大きく改革が進んでおり、独立の部門としてキャリアパスを作ることができるようになり、給与待遇も大幅に向上しました。また、研修システムも今までとは異なる新しい研修システムを作りました。また、NPコースの定員を増やすことによって活躍の場が広がるようになっており、奨学金制度を大きく拡張しています。更に、2年後には、本学看護学部博士課程を創設することを進めています。その中心は、NPの博士課程Doctor of Nursing Practice (DNP)です。DNPの創設ができれば、これは日本で3校目であり、本学が日本のNPのメッカになると期待しています。日本におけるNPの役割がどうあるべきか考えられていますが、本学がオピニオンをリードできる立場になることができればと思っています。卒業生の皆さんにはキャリアパスの一つの例として、考えていただくと良いと思います。

最後に、これは皆さんへの期待です。皆さんの中から、愛知医科大学の次世代を背負う人が是非出てきてほしいと思います。私は、本学が今後更に大きく飛躍していくことが必要だと思います。そのための基本は、皆さんのような若い力だと思っています。皆さんが成長し、臨床家として、研究者として、或いは実践家として、本学飛躍の担い手として愛知医科大学に戻ってきてほしいと思います。

本日は誠にありがとうございます。皆さんの今後の活躍に期待しています。

## 送 辞

### 医学部5学年次生 丹羽 永理奈



桜の香りが軽やかに流れ、暖かい春の日差しを感じる季節になりました。この良き日に卒業を迎えられた皆さまに、在学生会同心よりお慶び申し上げます。

本学に入学されてから今日までの日々をどのように振り返っておいででしょうか。医師、看護師となるべく、勉強、課外活動、実習など、沢山の試練を乗り越えて、今日この日を迎えられました。皆さまが、ここ愛知医科大学で、同じ道を志す友と出会い、ともに切磋琢磨し、そして豊かな人間性を育みながら貴重な時間を過ごされたことは、私たち在校生にとっても誠に感慨深く、尊敬の念を抱かずにはられません。

## 答 辞

### 卒業生 池原 詩菜



冬の厳しい寒さも少しずつ和らぎ、穏やかな日差しに春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、大変な状況の中ではありますが、私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙行していただきましたことに心より御礼申し上げます。今日、私たち207名は愛知医科大学を卒業致します。この晴れの日を迎えることができましたことに喜びを感じるとともに、これまで私たちを温かく見守り、支えてくださった先生方や家族を始め、多くの方々に深く感謝致します。

振り返ってみますと、新たな生活への期待と不安を抱きながら入学した日のことが、今懐かしく思い出されます。入学してから現在に至るまで、様々な人との出会いや貴重な経験があり、それら一つひとつが人として成長する上でかけがえのないものとなり、また、これから医療従事者として歩みだす私たちにとって大きな財産となりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、私たちの生活や医療の在り方は大きく変化しました。これまでとは異なる授業や実習形態に不安を感じることもありましたが、私たちが学びを継続できるように状況に応じて様々な体制を整えてくださった先生方や実習先の職員の方々、

私たちを快く受け入れてくださった患者さんやそのご家族には感謝の気持ちでいっぱいです。また、嬉しいことも辛いことも共有し、夢に向かってともに努力し合える仲間の存在があったからこそ、今日を迎えることができました。

私たちはこれから、社会人として新たな道を歩み始めます。それと同時に、医療に携わる者としての責任を果たしていく立場となります。本学で培った多くのものを糧として、どのような困難にも立ち向かい、乗り越えていきたいと思えます。そして、医療従事者として、また一人の人間として成長し続けられるよう、日々精進して参ります。

最後になりましたが、学長先生、ご来賓の皆さま、在学生の方々に御礼申し上げますとともに、お世話になりました諸先生方、地域の皆さま、多くの患者さん、医学部父兄後援会、看護学部父母会、同窓会、大学職員、病院職員の皆さま、そしてこれまで惜しみない支援をし、見守ってくれた家族に、卒業生一同、深く感謝し、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、愛知医科大学の更なるご発展を祈念致しますとともに、本学の卒業生であるという誇りを胸に、その名に恥じぬよう、社会への貢献に努めていくことを誓い、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

そして、勉強や部活動を通して皆さまと過ごした時間は、私たちにとってかけがえのない思い出となりました。皆さまが卒業される今、これまでの時間を振り返り、感謝と寂しさが溢れんばかりです。今日ここに、新たなる長い道のりへの第一歩を踏み出される皆さまが、本学の卒業生であることを誇りとし、心温かい医療者となって邁進されることを信じて、私たちが在校生も皆さまの背中を追ってともに医療の現場に立てるよう、残された学生生活を精進して参ります。

最後になりましたが、皆さまの今後の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、送別の言葉とさせていただきます。

最後になりましたが、学長先生、ご来賓の皆さま、在学生の方々に御礼申し上げますとともに、お世話になりました諸先生方、地域の皆さま、多くの患者さん、医学部父兄後援会、看護学部父母会、同窓会、大学職員、病院職員の皆さま、そしてこれまで惜しみない支援をし、見守ってくれた家族に、卒業生一同、深く感謝し、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、愛知医科大学の更なるご発展を祈念致しますとともに、本学の卒業生であるという誇りを胸に、その名に恥じぬよう、社会への貢献に努めていくことを誓い、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

## 大学院学位記授与式

令和4年3月5日（土）午前9時20分から大学本館711特別講義室において、令和3年度大学院学位記授与式が挙行されました。【写真】

式では、医学研究科博士課程から修了者14名を代表して岡本卓也さん、看護学研究科修士課程から修了者14名を代表して片田将司さんの2名に対し、祖父江元 学長から学位記が授与されました。

続いて、祖父江学長から告示が述べられ、式は終了しました。



令和3年度

医学部卒業記念品

## ハナミズキ寄贈

令和3年度医学部卒業生からの卒業記念品として、大学本館西側の芝生に「ハナミズキ」が植樹され、令和4年3月5日（土）の学位記授与式の終了後に卒業記念品授与式が行われました。【写真】連日の寒波も、この日だけは春を感じさせる暖かな陽気となり、素晴らしい授与式となりました。

当日は、祖父江元 学長、若槻明彦医学部長及び本学役職者と、令和3年度卒業生から卒業記念品担当者である加藤頼香さんを始めとする4名の卒業生が出席しました。

代表の加藤さんからは、「ハナミズキには『返礼』という花言葉があります。卒業生から愛知医科大学への返礼という気持ちと、このコロナ禍で大変な世の中において、後輩たちには逆境に耐え、愛知医科大学という豊かな土壌で堅実に成長してほしいという意味を込めました。登校時にこのハナミズキを見ることで、季節を感じ、華やかな気持ちになってくれたら嬉しいです。」と贈呈の言葉があり、学長から、「卒業生の皆さんとは、これからも積極的にコミュ



ニケーションをとり、本学を発展させていきたいと思っています。『返礼』という気持ちのこもった記念品をいただき、ありがとうございました。」とお礼の言葉が述べられました。

授与式出席者一同、このハナミズキが、コロナ禍で厳しい局面を強られる皆さんの心身の支えとなり、様々な苦難を乗り越えていくための一助となることを祈願しております。また、記念品の設置・授与に当たり、ご尽力いただきました学内外関係者の皆さまには心から感謝申し上げます。

## リヤドロ「サバンナの命」寄贈

令和3年度看護学部卒業生からの卒業記念品として、リヤドロ「サバンナの命」一式が寄贈され、令和4年3月17日（木）に7号館（医心館）3階フロアにて除幕式が行われました。【写真】

除幕式には、祖父江元 学長、坂本真理子看護学部長、本学役職者や看護学部教員及び令和3年度卒業生が参加しました。

始めに、卒業生を代表して宮本風彩さんから、「私たちは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも課題や実習など、様々な経験をさせていただきながら勉学に励んできました。今回贈呈させていただく『サバンナの命』に表現されている動物たちのように、過酷な状況においても最善を尽くし、真摯に患者さんと向き合うことをここに誓います。」との贈呈の言葉がありました。続いて、祖父江学長から、「お贈りいただいた記念品は、コロナ禍にお



いて正に皆さんの卒業に至るまでの努力や苦勞、そして、これからの思いなどが大変よく表されていると思います。この記念品に込められた思いを胸に、これからもたくましく頑張ってください。大変素晴らしい記念品を寄贈頂き、誠にありがとうございます。」とお礼の言葉が述べられました。

## 本学創立50周年記念ロゴマーク制作及び 記念サイト公開

本学は、2022年度（令和4年度）をもって創立50周年を迎えたことに伴い、このたび創立50周年記念ロゴマークが制作されるとともに、本学ホームページからも閲覧が可能な記念サイトが公開されました。

ロゴマークは、本学の校章である橘をモチーフに、「50」を優しく包み込み支えるような橘の葉と、新たに花開くような橘の花を配しており、これからの50年もグローバルな視点を持って地域医療に貢献していくという意味を表明しています。カラー版とモノクロ版の2種類を制作し、カラー版には「50」の文字に本学のシンボルカラーであるネイチャブルーを使い、個性を表現しました。創立50周年のPRに大いに活用されることが期待されます。

また、記念サイトでは、記念事業についてや同窓生からのメッセージ、50年の歩み等、本学創立50周年に関する様々な情報を発信し、開学記念日に挙行を予定している記念式典の開催に向け、随時更新を行って参りますので、是非ご覧ください。



創立50周年記念ロゴマーク（モノクロ版）



創立50周年記念サイト

<URL> <https://amu-50th.com>



## 創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

愛知医科大学は令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えます。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の

基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年4月 メディカルセンター開院



令和4年1月 2号館4階に誘致



メディカルクリニック・アイセンター（仮称）設置予定

### 創立50周年記念募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード、ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。

スマホから寄附の  
お申込みができます



#### お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金

検索

## 令和4年度予算大綱

令和4年度予算が、令和4年3月22日（火）の理事会、評議員会において承認されましたので、お知らせします。

本年度予算は、教育・研究・診療を続けることを基本に、大きな事業としては本学中期計画（令和元年～令和5年度）の実行、開院2年目となる愛知医科大学メディカルセンターの更なる拡充、株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）の設置と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点としてメディカルクリニックでのアイセンター（仮称）の設置を行うなど、喫緊の課題と将来の発展に着実に取り組むための予算としました。

教育分野については、コロナ禍に対応した学習環境の整備と国家試験対策の強化を中心に推し進め、教育レベルの質的向上に務める政策に積極的に投資することとしました。

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からZoom等のWeb会議ソフトを使用した講義、研修会及びオンラインによる学外との双方向授業等が進み、学外との回線が圧迫される状況となりました。既にインターネットを中心とした様々なICTサービスも提供されているなど、今後の需要が見込まれるため、ネットワークの回線を1Gbpsから10Gbpsに増強することで、速度の増加と安定化を図ります。

② 医学部では、4～6学年次における臨床実習（クリニカル・クラークシップA/B）において、教員による学生評価や学生の経験医行為記録等について学内独自のシステムで運用されていますが、独自システムならではの保守やデータのバックアップ体制が万全ではないなど、現状の運用が抱える問題点を改善し、学生・教職員の利便性の向上を図るため臨床実習支援システムを導入します。

③ 共用試験（OSCE）公的化に向けた全国トライアルが今年度実施されるため、そのトレーニングと実施に必要とされる呼吸音聴診シミュレータを始めとしたシミュレータ機器計6台を整備します。

④ 医師国家試験対策として、現在学内で活用している医師国家試験対策システムに蓄積された問題データを活用し、Web上で学生に試験を実施できる環境を構築します。

⑤ 看護学部においても、2か年計画で整備している各講義室の視聴覚機器の更新を今年度も実施し、映像や音声端子が時代遅れとなってしまうものを最新のものに对应することや、ワイドスクリーン及び高解像度化やモニターの追加など学習環境の整備を行います。

研究分野については、研究創出支援センターにおいて、分野横断的に学内研究者を支援することに取り組んでおり、研究技術の指導はもとより科学研究費助成事業の申請・採択件数の増強を目指す科研費申請者指導、各種の研究に係る論文指導等、研究環境の基盤づくりの一環として同センターに設置されたバイオバンク部門で、病院を受診した患者から採取した生体試料や健康診断時の生体試料の収集を行っています。この研究創出支援センターの中心的な業務を担う教員について、知識・技術を継承しながらセンターの発展に寄与できる人材を確保し、令和4年4月から採用します。また、バイオバンクで必要となる自動セルカウンターや分光光度計を追加整備します。これらの取り組みによって、学内研究者への基盤的な研究の支援体制とバイオバンクの強化を図ります。

更に、科研費不採択者（A評価）に対する研究費支援事業や、学内で公的研究費等の研究代表者を経験し、研究成果を上げている研究者を代表とする新たな研究ユニットを形成したグループに対して研究費支援を行うなどの取り組みも引き続き実施します。この研究ユニットは条件として基礎系研究者と臨床系研究者を複数参画させることや、若手研究者も複数名参画させることとしており、新たな研究成果を生み出し、若手研究者の育成と研究活性化の雰囲気醸成します。

医療分野については、本学全体収入の8割を占める医療収入について診療報酬改定が予定されており収入見通しが難しいこと、また、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行っていく必要があることから、事業の優先順位付けを行い、実施時期の見直しや事業の廃止、縮小など事務業務の抜本的な見直しを行うことで、活力を持続できる財政運営を確保することとします。

本院では、平成26年に新病院として新たに整備し

た医療機器やシステムが更新時期を迎える時期となりました。放射線機器を中心に計画的に更新計画を立案し、順次整備していきませんが、今年度はCT装置や生化学自動分析機、血液凝固機器などの中央臨床検査部における検査機器を更新します。また、麻酔導入リカバリ室の生体情報モニタリング、iPadを使った生体情報モニタリングシステムや、RSS（院内急変迅速対応システム）管理室を充実させ、スポットチェックモニターやパルスオキシメーターを院内各所に普及、充実させることで院内全ての患者のバイタルサイン異常がGICUでモニターできるようになるなど、大学病院に求められる高い医療安全、危機管理の維持を構築します。

#### <主な事業>

#### **教育・研究に関するもの**

##### ■ 教育環境の整備

- 機材及びシステムの老朽化による更新
  - ・1号館5階のマルチメディアA・B教室AV装置
  - ・大学本館講義室のタッチパネル及びアンプ
  - ・バーチャルスライド教育システム
  - ・救命処置トレーニングシミュレータ
  - ・学生ホール什器
- 医師国家試験対策システムを活用した演習システム環境の構築
  - ・Webで学生に試験を実施できる体制を構築する。
- 臨床実習支援システム（F.CESS）の導入
  - ・現行の問題点等を改善し、学生及び教職員の利便性向上を図る。
- 共用試験用シミュレータの購入
  - ・臨床実習前OSCEが公的化されることに向け、共用試験使用シミュレータを購入し、準備を行う。
- 教育研究活性化引当特定資産を財源
  - ・医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施
  - ・看護学部若手研究者に対する研究助成を実施
- 国際交流推進引当特定資産を財源
  - ・外国人研究者に対する滞在費助成を実施

##### ■ 研究環境の整備

- 電子リソースの学外アクセス環境整備
  - ・図書館の電子リソースの学外アクセスに関する

環境整備をすることにより、ネットワーク接続における安全性の確保及び利用者の利便性向上を図る。

##### ○装置の老朽化による更新

- ・病理組織標本自動固定包埋装置
- ・密閉式自動固定包埋装置

##### ○レーザーキャプチャーによるピンポイント解析システム

- ・組織及び細胞内局所における遺伝子、タンパク質の発現、修飾、異常を解析するためのシステムを構築し、医学研究の質的環境を整備する。

##### ○研究創出支援センターの研究機器整備

- ・自動セルカウンターや分光光度計を追加整備することにより、学内研究者への基盤的な研究の支援体制の強化を図る。

##### ■ 研究活動の活性化

##### ○科研費管理システムの導入

- ・科研費管理に特化した管理システムを導入することで科研費の管理を円滑に行う。

##### ○私立大学研究ブランディング事業

- ・健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究を継続実施する。

##### ○研究創出支援センターの人員体制強化

- ・研究創出支援センター機能の発展とバイオバンクの体制をより強固なものにするため、研究創出支援センターの教員を増員する。

##### ■ 教員評価制度

##### ○教員評価制度の処遇反映

- ・処遇反映制度を導入することで、教員のモチベーション向上を狙う。

##### ■ その他

##### ○ボディコンポジションアナライザーの導入

- ・運動療育センターにボディコンポジションアナライザーを導入することにより、会員のメディカルチェックを定期的に行う。また、そのデータを研究に活かしていく。

#### **本院の医療に関するもの**

##### ■ 教員・スタッフの増員

##### ○病理医の増員

- ・病理診断科による一括管理により、効率的にホルマリン固定を行う体制を確立するため、助教1名を増員する。

- 社会福祉士及び精神保健福祉士の増員
  - ・各事業の専従・専任要件や地域連携，退院支援，相談業務等に対応するため，社会福祉士及び精神保健福祉士を1名ずつ増員する。
- 臨床工学士の増員
  - ・高度医療機器への対応としてICU部門と危機管理部門にそれぞれ1名ずつ臨床工学技士を増員する。
- 理学療法士の増員
  - ・リハビリテーションニーズ増大と多様化に対応するため理学療法士を4名増員する。
- メディカルセンターへの人員配置に係るスタッフの増員
  - ・メディカルセンターの人員配置に対応するため，臨床工学技士，管理栄養士を2名ずつ増員する。
- アイセンター（仮称）への人員配置に係るスタッフの増員
  - ・アイセンター（仮称）への人員配置に対応するため，視能訓練士を1名増員する。
- 手術体制支援対策
  - 麻酔科の体制強化
    - ・手術における麻酔体制の安定確保を図るため，非常勤医師の活用に加え派遣麻酔医の受け入れなど，麻酔科医の負担軽減策を講じて麻酔科の体制強化を推進する。
  - NP（診療看護師）の処遇改善
    - ・手術の場における役割拡大により，麻酔科医の負担軽減に資するNP（診療看護師）の処遇改善及び体制強化を図る。
  - 臨床工学技士の増員
    - ・手術室の機器点検は臨床工学技士の義務であるが，麻酔科医が行っている場合も多いため，臨床工学技士を2名増員し手術件数確保を図る。
  - 薬剤師の増員
    - ・麻酔科医が行っている麻酔導入医薬品準備業務の一部を薬剤師へタスクシフトするため，手術室サテライトファーマシーの薬剤師を1名増員する。
- 診療活性化対策
  - 新任教授紹介広報
    - ・新たに就任した教授の紹介動画やパンフレットを作成し，地域の医療機関や患者へ広く広報することにより，患者数の増加を図る。
  - 診療活性化対策費（病院長インセンティブ）の支給
    - ・病院長が入院外来診療報酬請求額の前年度対比を評価指標とし，各種項目を裁量評価することで，成果を挙げた診療科等に病院長インセンティブを支給する。
  - 診療用機器の整備
    - 機器の老朽化による更新
      - ・X線CT診断装置⇒（2台：救命CT検査室，CT検査室）
      - ・一般撮影ポータブル撮影システム
      - ・手術室手術灯
    - 病院運営管理の強化
      - 医師事務作業補助体制加算1（20対1）を算定できる体制の構築
        - ・勤務医の働き方改革を推進し，質の高い医療を提供するため医師事務作業補助者を増員する。
      - 夜間100対1急性期看護補助体制加算及び夜間看護体制加算を算定できる体制の構築
        - ・看護師の働き方改革を推進するため，看護補助者を増員し，看護業務のタスクシフト・タスクシェアリングを進める。
      - ViTrac（iPadによる生体情報モニタリング）の導入
        - ・病棟で看護師が端末を携帯することで，異常アラームを即座にキャッチし，患者安全向上を図る。
      - BCP（業務継続計画）における災害対応事業
        - ・災害対応事業として，地震への備えのための病棟の棚や家具の固定を行う。また，新型コロナウイルス感染症感染防止で使用することとなった災害用簡易トイレの補充を行う。
      - RPS（院内急変迅速対応システム）の普及・拡大
        - ・院内で更なるシステムの浸透と教育を行っていくために，スポットチェックモニターを更に充実させる。
      - 医療情報システムにおける保守契約管理システムの導入
        - ・管理を一元化することで，業務の効率化を図る。また，論理的，客観的なデータを用いて，業者との交渉に利用する。

## ■ 病院システム更新関連

### ○システム機器の老朽化による更新

- ・機器試薬トータル販売システム機器
- ・麻酔導入リカバリ室生体情報モニタリングシステム
- ・中央臨床検査部の生理検査情報システム
- ・NAVIT（患者案内端末）システム

### ○高分解能CT用専用サーバ整備

- ・令和3年に導入した高分解能CTの高精細画像を活用するため、保存容量が確保できるサーバを追加し、利便性の向上を図る。

### ○放射線部門システムのカスタマイズ整備

- ・令和3年に更新した放射線部門システムに不具合が発生しているため、カスタマイズを行い、検査・治療の安全性を高める。

### ○輸血システムの改修

- ・二次元バーコードで発注管理できるようシステム改修を行い、また、他部署の検査技師でも夜間の業務に支障がないよう操作性を向上させて改修を行う。

## ■ 継続事業

### ○病院広報促進事業

- ・地域住民や連携病院、地域開業医への広報促進を図る。アピールポイントを積極的に对外発信することで、「救急医療といえば、愛知医大」というブランドイメージアップに努める。

### ○認定看護師教育課程等受講に係る奨学金制度

- ・キャリアアップを目指す看護師のための奨学金制度を充実させる。

### ○先進医療推進事業

- ・病院の基本方針の一つである「先進的医療技術の開発・導入・実践の推進」に従い、先進医療が認められるための実績づくりに必要な経費を予算措置し、確保する。

## メディカルセンターの医療に関するもの

## ■ 建物修繕

### ○耳鼻咽喉科及び泌尿器科の外来整備

- ・耳鼻咽喉科の診察室と泌尿器科の診察室及び膀胱鏡室の整備を行う。耳鼻咽喉科については新たに開設する外来としての整備。

### ○施設設備の老朽化による改修工事

- ・南館1階、2階空調設備更新工事

- ・南館エントランスリニューアル工事

### ○車寄せ・身障者駐車場屋根拡張工事

- ・南館入口の車寄せスペースが1台分しかなく、また、身障者用駐車スペースは屋根がない状態のため、増設・拡張工事を行い患者の利便性向上を図る。

### ○ゾーニング変更工事

- ・検査室のスペースが非常に狭いため、検査室等のゾーニング変更工事を行う。

### ○透析センター改修工事

- ・ベッド不足により一部患者の透析を断っている状態のため、透析センター改修工事を行い、透析患者増加を見込む。

## ■ 病院運営管理の強化

### ○携帯端末ポケットチャートの導入

- ・携帯端末ポケットチャートを導入することで、ベッドサイドでの情報閲覧、バイタル入力、点滴の3点認証システムを実現し、医療事故のリスク軽減や算定漏れ防止、また、医事課職員の残業軽減を図る。

### ○再来受付機の更新

- ・現行の再来受付機は設置後10年以上経過しているため、更新を行う。

### ○自動精算機の更新及び会計表示盤・ポスレジの導入

- ・現行の自動精算機は故障が多いため買い替えを行う。また、ポスレジ・会計番号表示の導入も併せて行う。

## ■ 病院システム関連更新

### ○検査システムの更新

- ・検査システムについて、WindowsOSのバージョンが古いため更新する。

### ○透析システムの更新

- ・透析システムが未導入の、本院と同じシステムを導入する。

### ○放射線、生理検査、内視鏡、文書管理システムの更新

- ・生理検査、内視鏡、文書管理はシステム未導入のため、システム導入を行う。また、将来的に中央受付を設置することを想定し、すでにシステムを導入している放射線も含めて一本化して導入を行う。

## アイセンター（仮称）の医療に関するもの

### ○アイセンター（仮称）の開設

- ・昭和58年に開院したメディカルクリニックをアイセンター（仮称）に再編する事業。総合的診療体制を見直し、新たに株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視推進抑制）と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点とする。

## 法人・大学運営に関するもの

### ○創立50周年記念事業

- ・本学は令和4年度をもって創立50周年を迎えるため、「創立50周年記念事業実行委員会」を設置し、各種記念事業を実施する。

### ○教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金

- ・令和4年度に創立50周年を迎えるに当たり、記念事業に係る募金を卒業生、在校生父兄、取引業者等に行う。募金目標額10億円（教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金）

### ○スターボックスの誘致事業

- ・令和4年度のオープンを予定

### ○学生食堂「レストランオレンジ」改修事業

- ・大学本館竣工と同時に開業し、老朽化が進んでいるため、全面リニューアルを行う。

### ○医心館1階多目的ホールの増改築及び2階セミナー室の増設工事

- ・医心館2階の名城大学サテライト室を1階に移設し、そこにセミナー室4部屋を増設することで、医学部の学習環境の向上を図る。併せて、1階は多目的ホールの増改築を行う。

### ○GT1非常用発電機エンジンオーバーホール等工事

- ・停電時に中央棟へ送電する非常用発電機が更新推奨時期（稼働後15～18年）を迎えるため、更新と部品交換を行い、機能回復と設備の信頼性を持続させる。

### ○中央棟第1無停電電源装置蓄電池更新工事

- ・中央棟第1無停電電源装置（2系）において、点検の結果、蓄電池の劣化が認められたため、更新する。本装置は一瞬の停電が生命等への影響を与えかねないオベ、集中治療、救命、電カ等などの系統へ電力を送電するもの。

### ○D棟南側病室系統排水配管更新工事

- ・D棟南側病室系統排水配管は設置から33年が経過し、腐食が進んでいる。更新工事を行うことにより、漏水事故による感染リスクからスタッフを守る。

### ○中央棟2階検体検査室の空調設備バックアップ機器設置工事

- ・検体検査室のエアコンは一般系統の電源供給のため、停電時には運転ができない状態で、停電時に検査機器が温度上昇すると機器停止に陥り、検査ができない恐れがあるため空調設備のバックアップ機器設置工事を行う。

### ○5号館（総合実験研究棟）空調設備更新工事

- ・設置から32年経過した5号館（総合実験研究棟）の空調設備を更新し、安定した動物飼育環境を確保し、省エネ効果も得る。（2年目／5か計画）

### ○構内電力ケーブル更新工事

- ・構内に張り巡らされている高圧電力ケーブルのうち、地中に埋設され耐用年数20年を超過した、交換必要優先度が高い4回線を更新する。（2年目／3か計画）

### ○経営改革・イノベーション推進事業

- ・理事長直轄の組織である経営戦略推進本部において、①地域医療連携、②救急体制の改革、③働き方改革、④財政基盤改革、⑤中期計画・中期目標、⑥その他に取り組む。

### ○情報通信システムの更新

- ・5年経過する現システムを更新し、利便性及び安全性の向上を図る。①ネットワーク環境の整備、②パソコン環境の整備、③事業継続計画（BCP）の対応、④リモート保守、⑤サーバ環境の整備

### ○公式ホームページのサーバ入替及びデザインリニューアル

- ・4台のサーバが保守契約期間満了となるため新たに入れ替える。また、サーバの入替にあわせて、スマホサイトに重点を置いたデザインリニューアルを行う。

### ○駐車場ゲート職員証読取回線新工事

- ・職員及び学生等の駐車場は、管理端末で利用者其々の権限を設定し、学内駐車場ゲートにPHS回線を介して情報送信しているが、PHS通信回線サービスが令和5年3月をもって終了するため、ソフトバンクの通信回線に更新する。

○電話交換機設備オーバーホール工事

- ・平成25年に稼働を開始した電話交換機が、メーカーの定める安定稼働寿命8年を経過しているため、各消耗部品と機器の更新を実施する。

○キャンパスエリア駐車場エリア舗装等工事

- ・愛知・豊川用水振興協会との間で締結した協定書で、第2駐車場路面の不具合は本学が修繕を行う取り決めとなっており、同協会から修繕依頼を受けているため、工事を行う。

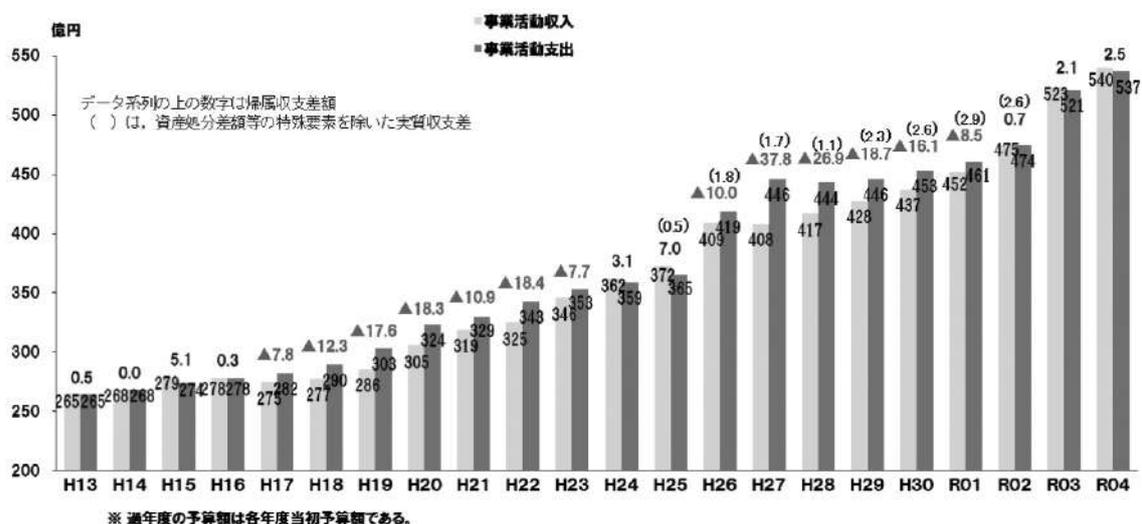
## 予算規模の推移

令和4年度の予算状況は、

**事業活動収入 539億8,977万余円**

**事業活動支出 537億4,062万余円**

となっており、事業活動収支差額は2億4,914万余円の黒字となっています。



事業活動収支予算では、収入53,990百万円（前年度比0.14%増）、支出53,741百万円（前年度比0.05%増）となり、収支差は249百万円の黒字予算となっています。資金収支予算では、学生生徒等納付金収入4,967百万円、寄付金収入706百万円、補助金収入2,424百万円、医療収入43,897百万円など資金収入合計56,126百万円となっています。一方、人件費支出21,231百万円、教育研究費支出26,669百万円、管理経費支出1,006百万円、施設関係支出1,431百万円、設備関係支出3,464百万円、借入金等返済支出1,342百万円など資金支出合計55,768百万円となっています。

# 資 金 収 支 予 算

令和4年4月1日から

令和5年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科 目	本年度予算	前年度（1月補正後）予算	増 減
学生生徒等納付金収入	4,967,320	5,020,580	△ 53,260
手数料収入	237,435	238,142	△ 707
寄付金収入	705,700	397,500	308,200
補助金収入	2,423,563	3,320,619	△ 897,056
資産売却収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
付随事業・収益事業収入	757,249	1,255,479	△ 498,230
医療収入	43,897,366	42,970,895	926,471
受取利息・配当金収入	1,672	1,850	△ 178
雑収入	969,466	681,028	288,438
借入金等収入	150,000	150,000	0
前受金収入	991,801	993,058	△ 1,257
その他の収入	9,462,352	9,302,347	160,005
資金収入調整勘定	△ 8,437,813	△ 7,895,821	△ 541,992
前年度繰越支払資金	6,685,842	6,381,963	
収入の部合計	62,811,953	63,817,640	△ 1,005,687

支出の部			
科 目	本年度予算	前年度（1月補正後）予算	増 減
人件費支出	21,230,537	20,863,438	367,099
教育研究経費支出	26,669,453	26,106,800	562,653
管理経費支出	1,005,999	1,000,485	5,514
借入金等利息支出	238,830	255,367	△ 16,537
借入金等返済支出	1,341,846	2,451,846	△ 1,110,000
施設関係支出	1,431,350	1,094,800	336,550
設備関係支出	3,464,302	1,900,977	1,563,325
資産運用支出	150,000	150,000	0
その他の支出	5,346,431	5,422,269	△ 75,838
〔 予 備 費 〕	500,000	1,050,000	△ 550,000
資金支出調整勘定	△ 5,610,431	△ 3,549,915	△ 2,060,516
翌年度繰越支払資金	7,043,636	7,071,573	△ 27,937
支出の部合計	62,811,953	63,817,640	△ 1,005,687

# 事業活動収支予算

令和4年4月1日から

令和5年3月31日まで

(単位：千円)

		本年度予算	前年度(1月補正後)予算	増減	
教育活動収入の部	科 目				
	学生生徒等納付金	4,967,320	5,020,580	△ 53,260	
	手数料	237,435	238,142	△ 707	
	寄付金	707,700	399,500	308,200	
	経常費等補助金	2,370,250	3,260,500	△ 890,250	
	付随事業収入	757,249	1,255,479	△ 498,230	
	医療収入	43,897,366	42,970,895	926,471	
	雑収入	969,466	681,028	288,438	
	教育活動収入計	53,906,786	53,826,124	80,662	
	事業活動支出の部	科 目			
人件費		21,195,891	20,911,938	283,953	
教育研究経費		30,655,797	30,232,800	422,997	
管理経費		1,312,377	1,223,485	88,892	
徴収不能額等		17,734	18,332	△ 598	
教育活動支出計		53,181,799	52,386,555	795,244	
教育活動収支差額		724,987	1,439,569	△ 714,582	
教育活動外収入の部	科 目				
	受取利息・配当金	1,672	1,850	△ 178	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	1,672	1,850	△ 178	
	事業活動外支出の部	科 目			
		借入金等利息	238,830	255,367	△ 16,537
その他の教育活動外支出		0	0	0	
教育活動外支出計		238,830	255,367	△ 16,537	
教育活動外収支差額		△ 237,158	△ 253,517	16,359	
経常収支差額		487,829	1,186,052	△ 698,223	
特別収入の部	科 目				
	資産売却差額	0	0	0	
	その他の特別収入	81,313	88,119	△ 6,806	
	特別収入計	81,313	88,119	△ 6,806	
	事業活動支出の部	科 目			
		資産処分差額	20,000	20,000	0
その他の特別支出		0	0	0	
特別支出計		20,000	20,000	0	
特別収支差額		61,313	68,119	△ 6,806	
〔予備費〕		300,000	1,050,000	△ 750,000	
基本金組入前当年度収支差額		249,142	204,171	44,971	
基本金組入額合計		△ 5,500,000	△ 5,300,000	△ 200,000	
当年度収支差額		△ 5,250,858	△ 5,095,829	△ 155,029	
前年度繰越収支差額		△ 67,264,324	△ 62,673,017	△ 4,591,307	
翌年度繰越収支差額		△ 72,515,182	△ 67,768,846	△ 4,746,336	
(参考)					
事業活動収入計		53,989,771	53,916,093	73,678	
事業活動支出計		53,740,629	53,711,922	28,707	

## 役員・評議員の異動

### 【理事】

辞任 若槻 明彦（令和4年3月31日付）  
就任 笠井 謙次（任期：令和4年4月1日～令和7年1月27日）

### 【評議員】

辞任 若槻 明彦（令和4年3月31日付）  
就任 笠井 謙次（任期：令和4年4月1日～令和7年1月27日）

## 名誉教授称号授与式挙行

令和4年3月31日付けをもって退職された中野隆教授(解剖学講座), 木村伸也教授(リハビリテーション医学講座), 馬場研二教授(メディカルクリニック), 伊藤恭彦教授(内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)), 出家正隆教授(整形外科学講座), 上田龍三教授(腫瘍免疫寄附講座)に愛知医科大学名誉教授の称号が授与され, 令和4年4月11日(月)正午から大学本館役員会議室1において授与式が行われました。

授与式には, 祖父江元 理事長・学長を始め, 笠井謙次副学長(医学教育担当), 島田孝一法人本部長, 羽根田雅巳事務局長が出席し, 祖父江理事長から称号記が授与され, 記念撮影が行われました。

記念撮影後に予定していた, 昼食を交えた懇親会



出席者による記念撮影

は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり, 授与式は終了しました。

## 『骨学のすゝめ』が漫画『Dr. Eggs』の表紙に採用されました

本学Medical Science Clubの学生と中野隆名誉教授の共著による教科書『骨学のすゝめ』が, 「ドラゴン桜」や「アルキメデスの大戦」で知られる三田紀房さんの最新作『Dr. Eggs』第1巻の表紙に採用されました。

本作品は, 何となく医学部に入学した主人公が成長していく過程を描いた, 知的好奇心を刺激する医学とスクールライフの群像劇です。第1巻では, 主人公が骨学実習に取り組む姿も描かれています。



「Dr.Eggs」第1話  
無料試し読みページはコチラ



©三田紀房 グランドジャンプにて連載中

## 大学運営審議会～新メンバーでスタート～

学長及び副学長を中心に大学の重要事項及び将来構想等を審議する組織として、平成28年4月1日付けにて設置された「大学運営審議会」は、毎年度20回程度開催され、各種規則の改廃に係る審議のほか、副学長から学部・病院の動向や課題等について随時報告がなされ、両学部間での情報共有が図られています。

昨年度に任期満了に伴う学部長の改選があり、副学長（特命担当）も新たに指名され、令和4年度は新メンバーで第1回大学運営審議会が4月18日（月）に開催されました。

今年度は、メディカルクリニックの再編、看護学分野別評価の受審準備、国家試験対策、教授人事など、創立50周年を迎え、次の時代に向けた様々な課題への迅速な対応を重視し、構成員が多忙の中ではありますが、開催時間を調整しながら積極的に開催していきます。



### <構成員>

学 長	祖父江 元
副学長（医学教育担当）	笠井 謙次
副学長（看護学教育担当）	坂本真理子
副学長（診療担当）	道勇 学
副学長（特命担当）	春日井邦夫
副学長（特命担当）	佐藤 元彦
事務局長	羽根田雅巳

## 愛知医科大学と愛知学院大学との 大学間連携に関する協定の締結

令和4年3月28日（月）午後2時から、大学本館711特別講義室において、「愛知医科大学と愛知学院大学との大学間連携に関する協定の締結式」が行われました。

式には、学校法人愛知学院の中村見自理事長、愛知学院大学の引田弘道学長、後藤俊明副学長・研究推進・社会連携部長、丸山和佳子心身科学部長及び藤村信隆法人本部長兼大学事務局長が出席され、本学からは、祖父江元学長、若槻明彦副学長・医学部長、坂本真理子副学長・看護学部長、島田孝一法人本部長及び羽根田雅巳事務局長が出席しました。

引田学長及び祖父江学長が協定書に署名し、記念撮影が行われた後、祖父江学長、引田学長及び中村理事長からのあいさつがあり式は終了しました。

医系大学である本学は、心身科学部、心理学部、歯学部、薬学部の医療系学部がある愛知学院大学と連携して、学生の臨床教育を行うことで、質の高い専門職に関わる人材育成を進めていきます。



引田学長（左）・祖父江学長（右）

また、地域住民の健康を増進させる調査研究にも連携して取り組みます。

更に、名古屋市東部に隣接する長久手市と日進市に両大学のキャンパスがある利点を生かし、共同で地域の産官学の発展に寄与することを計画しています。

## 愛知県がんセンターと連携・協力の推進に関する協定を締結 ～愛知県におけるがん医療の更なる充実を目指して～

愛知県がんセンター(名古屋市)と本学との間で、連携・協力の推進に関する基本協定が締結されました。

協定には連携・協力する事項として、(1) 共同研究など、(2) 医師、研究者や職員の交流、(3) 人材育成、(4) 研究施設・設備及び研究資料の相互利用などが盛り込まれており、協定締結により、がんの診療・研究・教育の三つの面で本学の「がん医療」の機能強化を図り、「今まで治せなかったがんを治す」というメッセージを尾張東部医療圏を中心とした地域に発信していきたいと考えています。

その具体として、がん研究では、バイオバンクの活用などを通じて本学のがん研究の底上げを図ります。また、がん教育では愛知県がんセンターとの様々な交流を通して教育の質を高め、将来的には連携大学院の設置を視野に入れて取り組みます。

協定の締結に当たり、令和4年4月11日(月)愛知県公館において、本学から、祖父江元 理事長・学長、笠井謙次副学長(医学教育担当)、道勇学副



学長(診療担当)が出席し、愛知県からは、大村秀章知事、高橋隆病院事業庁長、愛知県がんセンターの丹羽康正総長が出席して締結式が行われました。【写真】締結式では、出席者の紹介や大村知事、祖父江理事長・学長からのあいさつがあり、お互いに協力し、愛知県全体のがん医療の一層の充実を図っていくことを確認しました。

この協定を通じて、今後両者が更に協力を深めながら、本学が愛知県のがん医療の将来を担っていくことが期待されています。

## 「あいち認知症パートナー企業・大学」への登録

愛知県では、平成29年9月に「あいちオレンジタウン構想」を策定し、その基本理念である「認知症に理解の深いまちづくり」の「じぶんごと」として取り組む企業や大学等を「あいち認知症パートナー企業・大学」として登録し、その取り組みを宣言することで、広く公表しています。

令和2年度から本学の看護学部において、長久手市と協力し「認知症サポーター養成講座」を定期的で開催しており、その要件を満たしていることから、本学も令和4年2月21日(月)付けで、その登録に

加わることとなりました。登録後は、あいち認知症パートナーの表示やロゴマークをホームページや名刺等に掲載できるほか、愛知県のウェブサイトに掲載されます。

令和4年4月27日現在、「あいち認知症パートナー企業・大学」には、52社の企業と18校の大学等が登録されています。



「あいち認知症パートナー企業・大学」ロゴマーク

## 腫瘍免疫寄附講座の設置期間終了

平成24年4月1日に、新しい科学的ながん免疫療法の開発研究を行い、社会が期待する腫瘍免疫療法の確立に貢献することを目的として医学部に設置された腫瘍免疫寄附講座は、10年の設置期間を経て令和4年3月31日をもって講座終了となりました。講座終了に当たり、講座責任者の上田龍三教授からごあいさつがありました。

腫瘍免疫寄附講座・教授 上田龍三

私のライフワークとも言うべき「腫瘍免疫」は、21世紀に入り基礎研究からがん治療の概念を一変させるような臨床研究への変換期でした。この新しいうねりをもう少し現場で見届けたいと思い、前職の定年退職時に本学理事会（三宅養三前理事長）のお許しを得て、平成24年（2012年）に開講させていただきましたが、10年の節目を迎え閉講致すことになりました。

私は、昭和44年に名古屋大学医学部を卒業し、初期研修で数名の白血病の主治医を担当して以来、50数年間「がんの薬物治療」一筋の人生でした。臨床医を始めた当時はがんの「告知は真に死の宣告」でした。以来、がんの化学療法、分子標的療法、免疫療法と治療の変遷とその確かな臨床への手ごたえを実感しながらの毎日は夢と希望のある研究生活でした。

本学での10年間では、私達が成人T細胞白血病の

治療薬として開発した日本初の抗がん抗体薬（モガムリズマブ）を用いて固形がんを対象とした新規がん免疫療法の臨床治験3本を全国ネットワークで完遂でき、がん免疫療法に一石を投じる成果を得ることができたことは大きな喜びでした。

学内では、学生さんや若い研究者との触れ合いは良い刺激になり、また、事務局をはじめ多くの大学関係者には温かいご支援をいただき、お陰で充実した研究生活を送ることができましたことを厚く御礼申し上げます。

平成29年には紫綬褒章の栄に浴し、この度、講座を閉じるに当たり本学から名誉教授の称号を賜りました。これまでの共同研究者及び関係者に心から感謝致します。

最後になりましたが、愛知医科大学の今後の更なる発展を祈念しております。

## 疼痛データマネジメント寄附講座の設置期間終了

疼痛データマネジメント寄附講座は、多種多様な疼痛患者データや、疼痛緩和外科・いたみセンターの集学的診療チームが持つ診療情報を「疼痛データバンク」として収集・集約し、そのデータを有効的に利活用する目的として平成29年4月1日に医学部に設置されました。

5年の設置期間を経て令和4年3月31日に本講座が終了するに当たり、講座責任者の青野修一講師からごあいさつがありました。

研究成果として、慢性疼痛患者約5,000症例のデータをデータベース化、問診システムやスマートフォンアプリを開発、継続的に安全に収集可能な仕組みを構築するなどの運用を進めて参りました。また、バイオバンク部門との連携をとり、血液（遺伝子）情報を収集できる体制作りや、厚生労働省慢性の痛み政策事業の慢性疼痛患者レジストリの構築に取り組み、日本で最初の慢性疼痛患者レジストリ事務局の役割を担って参りました。集約した疼痛データの利活用の取り組みの一つとして人工知能（AI）を

疼痛データマネジメント寄附講座講師 青野修一

活用した診断支援システムの開発を進めてきました。本寄附講座でのいくつかの取り組みは、今後、学際的痛みセンターに還元・継続し、職種職域の枠を超えた次の学際的領域（医学と工学の連携）の研究発展に繋げて参ります。

最後となりましたが、設立運営に当たり、本学関係者の皆さまのご尽力にこの場を借りて御礼申し上げます。また、本寄附講座の設立から今日まで多大なご寄附を賜りました日本臓器製薬株式会社に深く御礼申し上げます。

## 近視進行抑制寄附講座設置

本学医学部では、教育・研究の進展及び充実に資することを目的とし、企業又は個人等からの寄附金を受入れ、これを有効に活用して「寄附講座」を設置し、教育研究活動を行っております。

令和4年4月1日付けで医学部に新たに寄附講座を新設しました。新設講座である「近視進行抑制寄附講座（英文名：Myopia Control Research）」の概要は次のとおりです。

### 1 設置目的

日本国内だけでなく世界的にも近視人口が増加しており、2050年には全世界人口の約半数が近視に、約1割が強度近視になると推測されています。近視が進行し強度近視に至ると、視機能障害を伴う網膜剥離、緑内障など高齢時の眼疾患リスクが高まることが分かっており、近視の進行を抑制することができれば医療的な意義は非常に大きく、研究の発展が期待されています。本寄附講座では、子どもの近視進行と抑制に関する機序の解明、及び新規の近視進行抑制機能を有するコンタクトレンズの開発も目的としています。

### 2 設置期間

令和4年4月1日から令和9年3月31日まで（5年間）

### 3 職員等

教授（特任） 三木 篤也  
助教 山雄 さやか  
視能訓練士 岡部 有希子

### 4 寄附者名

株式会社メニコン

### 5 使用施設

愛知医科大学眼科クリニック MiRAI（仮称）

## 愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）

令和4年3月23日（水）午後2時から、長久手市保健センター3階会議室において、長久手市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、会場定員の半数以下と規模を縮小して実施し、「睡眠の病気あれこれ」と題して睡眠科の篠邊龍二郎教授（特任）が講演を行いました。

データを基に、睡眠に関する様々な障害や疾病について、どのような症状が起こるのか、また、どのような方法で対処すれば良いのかについて説明がありました。参加者からは、「必要な睡眠時間は人によって異なることや、質の良い睡眠をとるにはどのような生活をすれば良いのかが分かった。」「睡眠



の不安について少し気が楽になって良かった。」などの感想があり、大変有意義な講座となりました。

## 令和3年度介護施設等防災リーダー養成研修開催

愛知県委託事業「令和3年度介護施設等防災リーダー養成研修」に本学が採択され、令和4年3月10日（木）及び17日（木）大学本館4階第1会議室において運営本部を設置し、オンライン形式で防災リーダー養成研修が開催されました。【写真】

本事業は、近年頻発している大規模地震などの激甚災害に対して、要配慮者を預かる介護施設等がどのように対策を講じて備えていくかを考え、「防災リーダー」を養成することを目的としており、介護施設等に勤務する方々を対象に、過去の事例や愛知県の被害予測を踏まえた、講義及び机上演習を行うことで、各施設における危機意識の向上及びBCP（事業継続計画）の見直しに繋がりました。

参加者からは、「計画作成の参考になった。」、「他



施設と意見交換により、様々な考え方を知ることができて良かった。」との感想があり、大変有意義な研修となりました。

## 認知症サポーター養成講座開催

長久手市役所長寿課と長久手市社会福祉協議会による認知症サポーター養成講座が、令和4年2月18日（金）午後3時から午後4時30分まで大学本館たちばなホールにおいて、看護学部教職員、看護学部学生を対象に開催されました。

厚生労働省は、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことを目指しています。認知症サポーター養成講座は、全国の地域住民、金融機関やスーパーマーケットの従業員、小・中・高校の生徒など様々な人たちが受講しています。

本講座には、看護学部教職員、看護学部学生合わせて25名が参加し、講座の中では「声かけ体験」が行われ、長久手市民ボランティアが演ずる寸劇を通して、認知症の人への望ましい対応と望ましくない対応を学びました。受講後のアンケートには、「寸



学生による声かけ体験の様子

劇の中で学んだことを実践していただいたので、イメージがしやすく分かりやすかった。」、「困っている認知症の人がいたら、勇気を出して声をかけたい。」等の感想がありました。

受講者には、認知症をサポートする意志を示すオレンジカードが配布され、今回の学びは学内や院内だけでなく、地域社会にも活かせる講座となりました。

## 学内研究ユニット発表会開催

令和4年2月4日（金）に大学本館7階の会議室等において、学内研究ユニット発表会が開催され、各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション発表と各ユニット及び学内研究者によるポスター発表が行われました。

「研究ユニット創出支援事業」は、学内の研究活性化を目的として、分野横断的な「研究ユニット」を組織し、各ユニットで研究を遂行するもので、その研究成果の発表の場として、学内研究ユニット発表会が行われました。

発表会当日は、プレゼンテーション発表14課題、ポスター発表30課題の研究成果発表が行われ、会場参加者は69名、プレゼンテーション発表のオンライン参加者は76名、合計145名の研究者等が参加しました。発表会を通じて多くの研究者間での活発な意見交換や研究内容に関する質疑応答があり、大学全体の研究交流会の場として活用されることで非常に有意義なものとなりました。

また、発表会終了後、掲載の許可を得たポスターについては、職員ポータルサイト（BANANA）の研究支援ページにおいて一定期間掲載すること



各ユニット研究代表者による  
プレゼンテーション発表の様子



ポスター発表の様子

で、当日参加できなかった研究者等もポスター発表を閲覧することができるように致しました。

## 科学研究費助成事業執行方法等説明会開催

令和4年3月23日（水）午後5時から、大学本館3階302講義室において、科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）の執行方法等の説明会が対面とオンラインでのハイブリッド形式により開催されました。

本説明会は、令和4年度の科研費研究代表者及び研究分担者等科研費関係者を対象とし、科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保すること、不正防止等の徹底を図ることを目的とするものです。説明内容は、年間のスケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たっての留意点等や、最近の研究費不正使用に関する事例紹介等となっており、研究者等に対して不正使用防止に向けた注意喚起を図っています。

これに加えて、令和4年度から新たに学内研究者及び研究支援者等に受講してもらう「コンプライアンス教育及び研究倫理教育」において、独立行政法人日本学術振興会が提供するeラーニング教材「eL CoRE」が導入されることから、この実施方法に関する説明と「倫理講習会」が併せて行われました。

今回は初めての試みとして、対面とオンラインでのハイブリッド形式により科学研究費助成事業執行方法の説明、国の研究機関における公的研究の管理・監査のガイドラインに沿ったコンプライアンス教育等への対応、及び倫理審査の申請に係る倫理講習会を組み合わせる説明会となりました。

## 情報セキュリティ講演会開催

総合学術情報センター（情報基盤部門）では、令和4年3月1日（火）午後5時から、情報セキュリティに関する意識向上・啓発活動の一環として、全教職員及び学生を対象に情報セキュリティ講演会（SD研修）が開催されました。今年度は、コロナ禍によりZoomによるオンラインで実施し、59名の参加がありました。

講演会では、株式会社ラックセキュリティアカデミー担当部長の大竹章裕氏を講師に迎え、「情報セキュリティのトレンド」と題し、最新の情報セキュリティ動向について、事例等を交えてご講演

いただきました。

受講後のアンケートでは、クラウドの利用についてやオンライン会議の安全性・信頼性についての質問があり、出席者は情報通信サービスの変化によって重要性が高まっている今後の情報セキュリティのあり方について、熱心に聞き入っていました。

本学では、引き続き情報基盤の整備を実施するとともに、情報漏洩が発生しないよう、教職員及び学生への意識向上、啓発活動に努め、情報セキュリティ対策に一層積極的に取り組んで参ります。

## eラーニングシステム（Moodle）利用講演会開催

令和4年3月4日（金）に総合学術情報センター（ICT支援部門）主催のeラーニングシステム（Moodle）利用に係る講演会がオンラインにより開催され、47名の参加がありました。

講師には、自治医科大学医学教育センターの浅田義和氏をお招きし、「H5Pを用いた教材の特徴と作成方法」と題して、本学のeラーニングシステムであるMoodle（本学名称：AIDLE）のバージョンアップに伴い新たに実装された、インタラクティブな学習教材作成機能であるH5Pについて、サンプル教材の体験を交えてご講演いただきました。

講演では、世界で使用されている多くのeラーニングシステムで使用可能なH5Pの機能（HTML5

Package）を活用することで、従来の「一方向型」のみならず、「双方向型」の学習教材の提供が可能となり、教育コンテンツが単調にならないよう工夫することが可能になるとのお話がありました。

令和2年度から、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う遠隔（オンライン）講義の実施により、講義や実習を補完するeラーニングの必要性が高まっており、一層の利活用が期待されます。

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeラーニングシステム活用のサポートを通じて学修支援を行うとともに、教育現場での活用に貢献することを目指しています。

## 主な役職者の改選

### ○ 大 学

#### 【副学長（医学教育担当）】



笠井 謙次

（病理学講座・教授）

CBT及びPre-CC OSCEが令和5年度から公的化され、更に、Post-CC OSCE公的化も議論されています。益々、実践的教育が求められる中、全ての教職員とともに本学の医学教育をバージョンアップさせたいと考えています。

（新任、任期：R4.4.1～R6.3.31）

#### 【副学長（看護学教育担当）】



坂本 真理子

（地域在宅看護学・教授）

引き続き、副学長を拝命致しました。看護学教育担当として積極的に発信し、本学の発展に力を尽くします。医学部及び愛知医科大学病院の皆さまとともに、社会に貢献する大学としてアピールできるよう知恵を絞りたいと考えております。宜しくごお願い致します。

（再任、任期：R4.4.1～R6.3.31）

### 【副学長（特命担当）】



春日井 邦夫

(内科学講座(消化管内科)・教授)

引き続き、副学長を拝命致しました。昨年度より発足しましたダイバーシティ推進委員会を更に活性化させ、全ての職員が能力と個性を十分発揮できる環境作りをして参ります。また、教員評価の改善や本学の魅力を伝えるホームページの改修も含めて、本学の更なる発展に貢献できますよう取り組んで参ります。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R5.3.31)

### 【副学長（特命担当）】



佐藤 元彦

(生理学講座・教授)

この度、公的研究費管理・研究不正防止等担当の副学長（特命担当）を拝命しました。近年の研究関連法規の整備・改定により、本学においても迅速かつ適切な対応が求められております。本学の研究体制に即した対応を進めて参りたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

(新任, 任期: R4.4.1 ~ R5.3.31)

### 【総合学術情報センター長】



細川 好孝

(生化学講座・教授)

この度、総合学術情報センター長を拝命しました。本センターは、図書館部門、ICT支援部門、情報基盤部門からなります。図書館部門のサービス充実、ICT支援システムのバージョンアップ及びネットワーク通信回線の高速化を図ることで、学生教育への貢献及び教職員の業務の向上を目指して参ります。

(新任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)

### 【災害医療研究センター長】



津田 雅庸

(災害医療研究センター・教授(特任))

引き続き、災害医療研究センター長を拝命しました。本センターは、災害医療の教育・研究を行い、各種災害における犠牲者の軽減に貢献して参りたいと存じます。また、大学病院としての教育・研究にも取り組んでいきたいと思ひます。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)

### 【保健管理センター長】



鈴木 孝太

(衛生学講座・教授)

引き続き、保健管理センター長を拝命致しました。大学に関わる皆さんが、毎日を健康に過ごすことができるよう、健康管理を中心にサポートして参ります。体調不良時の休養や健康相談など、気軽にD棟6階のセンターをご利用ください。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)

### 【加齢医科学研究所長】



岩崎 靖

(加齢医科学研究所・教授)

引き続き、加齢医科学研究所長を拝命致しました。本研究所は世界有数のブレインリソースセンターを持つ神経病理学専門の学術研究機関であり、これからも神経疾患の病理解剖、神経病理診断を通して、神経科学の発展、教育に貢献していきたく思ひます。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)

○ 医学部

【眼科クリニックMiRAIクリニック長】

(6月1日改称予定)

三木 篤也

(近視進行抑制寄附講座・教授(特任))

眼科クリニックMiRAIクリニック長を拝命致しました。大学ならではの高度医療や先端研究を、よりアクセス良く行うための施設です。私の専門の緑内障を始め、網膜、眼形成等の日帰り手術と、近視の研究を二本柱として進めて参ります。ご支援宜しくお願い致します。

(新任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)



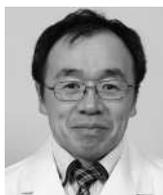
【学際的痛みセンター長】

牛田 享宏

(学際的痛みセンター・教授)

引き続き、学際的痛みセンター長を拝命致しました。学際的痛みセンターでは、色々な領域の専門家と連携し、難治性の慢性疼痛を中心とした疾患の診療・研究・教育を推し進めております。今後も、この領域の医療の更なる発展に努めたいと考えています。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)



【総合医学研究機構長】

佐藤 元彦

(生理学講座・教授)

前年度に引き続き、総合医学研究機構長を拝命致しました。高度研究機器部門、動物実験部門、核医学実験部門からなる総合医学研究機構は、研究活動の中核として機能しています。設備の整備・広報活動を通して、本学研究活動の発展に貢献して参りたいと思います。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)



【IR室長】

笠井 謙次

(病理学講座・教授)

本学の医学教育は更なる改善が必要です。また、昨今の医師国家試験、入学者選抜など医学部を取り巻く状況も急速に変化しています。こうした情勢を踏まえ、IR室は本学実態に関する指標の収集と分析を行い、本学の成長戦略の指針を提供したいと考えています。

(新任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)



○ 看護学部

【看護実践研究センター長】

佐藤 ゆか

(感染看護学・教授)

引き続き、看護実践研究センター長を拝命致しました。Covid-19の流行状況を鑑みながら、Webセミナーの効果的な展開や学生ボランティア参画の促進などにより、医療・地域社会のニーズを踏まえた活動の更なる充実に努めていきたいと思ひます。

(再任, 任期: R4.4.1 ~ R6.3.31)



# 教授就任インタビュー



内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）・教授

いしもと たくじ  
石本 卓嗣

## — 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和4年4月1日付けで内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）の教授を拝命致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

本院の診療科では、腎臓・リウマチ膠原病の両分野において網羅的・包括的な医療を行っており、これは東海地区の大学では唯一で、日本でも限られた環境です。今後も両分野を分け隔てることなく、教室全体で高度医療を提供できるように努めて参ります。

また、近隣医療機関や大学病院における専門医の不在によるアンメット・メディカル・ニーズに応えるべく、より多くの専修医・若手医師を受け入れて優秀な腎臓専門医・リウマチ専門医の養成に努めて参ります。

最後に、研究マインドを持った若手医師の育成し、日々の診療から抽出・選定されたリサーチクエスチョンを解決する臨床研究・基礎研究を進めて参ります。そして、愛知医科大学から世界に向けて、腎臓領域・リウマチ膠原病領域の発展に貢献するような成果を発信したいと考えております。

## — 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

皮膚科を自宅開業していた父から、医師とは開業医や勤務医だけでなく、研究活動をする機会も得られる仕事だと聞いて育ちました。しかし、以下にあるように学生時代から初期研修までの頃は、そのような考えも忘却の彼方だったように思います。しかし、臨床医として一通りの経験後は、臨床についてある程度の自信が得られた一方で、それらは経験に基づくものが主であることや、自身の知識の深みの無さを自覚しました。そんな中で、大学院分子生物学（旧生化学）教室にて基礎研究の初歩から学び、また、核酸医薬の研究を行う機会をいただきました。米国留学を経て、腎臓病の病態について代謝からのメカニズムの解析及び核酸医薬の開発の研究に繋がりました。

## — 学生へのメッセージをお願いします。—

学生時代をサッカー部、多種のバイト、旅行を軸に過ごしましたが、本業は「臨床医になる」という漠然とした考えのみでした。医学以外のことに励んだ（楽しんだ？）経験も生きていと強く感じる一方で、卒後の多様な進路のための行動ができていなかったと感じます。学生時代は、自由に時間が使える人生でとても貴重な時期です。コロナ禍が明けつつある今、領域を問わず、様々なことに挑戦してください。

最後に、腎臓・リウマチ膠原病内科では希望に沿った多様な進路を歓迎し、機会を提供できるように努めていきます。是非、この分野に興味を持って覗いてみてください！

## —退職を迎えて— “長年の勤務お疲れ様でした”

長年にわたり本学に勤務され、本年3月31日をもって定年退職又は期間満了退職された方々から寄せられたメッセージをご紹介します。

なお、定年退職後も再雇用等により本学にご尽力いただける方もみえますので、引き続きのご活躍をご期待致します。



中野 隆 先生  
(解剖学講座・教授)

### 「学無止境」—学問には終止も境界もない—

令和4年3月末をもって定年退職致します。昭和50年に4回生として入学して以来47年、平成9年の教授就任以来25年、長きに渡ってお世話になりました。学内外の多くの皆さま方のご支援を得て、解剖学の研究及び教育に充実した時間を過ごさせていただきました。また、医学部学生部長、総合学術情報

センター長、教務部次長、入試委員会委員などを務めさせていただき、貴重な経験となりました。

医学教育者としての最大の喜びは、後輩である良き学生たちに巡り合えたことです。その集大成として、令和2年にMedical Science Clubの学生とともに、『骨学のすゝめ』という教科書を出版できました。3学年にまたがる学生たちが、構想から出版まで5年の歳月をかけた努力の結晶です。「学無止境」の精神は、我が教え子たちの手によって、『骨学のすゝめ』として見事に結実しました。

本学は今年創立50周年を迎えます。100周年に向け、本学の更なる躍進を祈念しています。



伊藤 恭彦 先生  
(内科学講座（腎臓・リウマチ  
膠原病内科）・教授)

### 退任のごあいさつ

退任に当たり、ごあいさつをさせていただきます。私の在任期間はわずか5年でありましたが、その間に様々な経験をさせていただき、少しは愛知医科大学に貢献できたのではないかと振り返っています。腎臓・リウマチ膠原病内科においては、診療・研究・教育に充実した時間を過ごさせていただきました。また、医学部の仕事には多く関わらせていただき、令和2年度から2年間教務部長を務めさせていただきました。ちょうど新型コロナウイルス感染症が拡

大した時期で、就任と同時に授業・実習が停止となり、オンライン講義を直ちに取り入れ、教育に大きな遅れを出すことなく進めることに努めました。混乱した時期であり様々な意見が噴出しましたが、皆さまのお力添えをいただき何とか乗り切ってきました。令和3年度は1/2分散登校が定着し、臨床実習もそれなりに順調に進んでいました。しかしながら、オミクロン株の流行に伴い、再度完全オンライン授業への移行を余儀なくされ再度苦勞しましたが、現在鎮静化に向かっているところです。

退任後も学内の仕事・診療に関わるようにと指示をいただき、後しばらく本学に籍を置かせていただくことになりました。本学の発展に微力ながら貢献できればと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



**木村 伸也 先生**  
(リハビリテーション医学  
講座・教授)

### リハビリテーションは未完の大器

在任期間22年余で、私にとって印象深いのは三つの大きな仕事に関わったことです。まず、赴任の翌年である平成12年からの介護保険制度に始まる医療・介護・リハビリテーション大変革への対応です。リハビリテーションを巡る制度改革への対応に多忙を極めました。日本のリハビリテーションが本来あるべき姿に近づきつつあるという期待が膨らむ

日々でした。次に、新病院建設を通して、多くの医師・看護職、他部門との協働を実現するリハビリテーションセンターの人的体制・施設ができあがり、本学にとって不可欠の存在になったことです。そして、愛知県で21年ぶりに第38回総合リハビリテーション研究大会の実行委員長を務めたことです。諸先生、職員の皆さま、障害当事者及び専門職団体の方々からいただいたご指導とご支援の賜物です。

愛知医科大学のリハビリテーション部門は未完の大器です。次期教授の下、誕生して間もないリハビリテーション医学講座を核とした一層の発展を期待しております。



**馬場 研二 先生**  
(メディカルクリニック・  
教授)

### 定年退職のごあいさつ

令和4年3月31日に定年を迎えます。愛知医大に34年間お世話になりました。自分としては、あっという間という気持ちと、本当に長い間勤めたという気持ちが半々です。赴任当時、何も知識のなかった私が何とかここまでやってこられたのは、ひとえに温かく見守りながらご指導くださいました先生方やスタッフの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

定年までの約10年間は、メディカルクリニックの管理・運営に関わらせていただき、多くを学ばせていただきました。ここでは地域医療への貢献とともにクリニックの社会的認知度の向上にも貢献できたと自負しておりますが、これも職種を超えたスタッフの全面的な協力体制があればこそで、改めて厚く御礼申し上げます。

4月以降は特命教授として引き続き本学に籍を置かせていただき、メディカルセンターと本院の外来において呼吸器診療と新型コロナウイルス後遺症外来の診療をさせていただく予定で、本学の発展に少しでも貢献できればと考えております。引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



**安達 五月 さん**  
(メディカルセンター看護部・部長)

愛知医科大学の一員として定年を迎えられたことに感謝しております。再雇用としても、初心を忘れることなく、より一層尽力して参りますので、よろしくお願い致します。



**大野 真 さん**  
(臨床工学部・主任)

30年近く素晴らしいスタッフに囲まれ豊かな日々を送ることができ、感謝しております。また、文部科学大臣賞という栄誉をいただいたのも私個人の力ではなく、支援してくださった方々のお陰だと実感しております。



辻 晶 さん  
(臨床工学部・技師長)

多くの方々にご支援をいただき、無事定年を迎えることができましたこと、大変感謝致しております。また、再雇用に対しご尽力賜り深く御礼申し上げるとともに、今しばらくのご指導お願い申し上げます。



東 直樹 さん  
(中央放射線部・副技師長)

39年を振り返り、「やり残したこともあるが、後悔無く概ね楽しくやれた。」と感じています。職場の皆さまには感謝しかありません。今後も、大学が発展・進化していくことを祈っております。



水谷 昭代 さん  
(看護部・主任)

40年間、多くの方々に支えていただき、定年を迎えることに感謝致します。再雇用で勤めさせていただくことになりました。影ながら皆さまの発展をお祈り申し上げます。

(五十音順、希望者のみ掲載)

## シャトルバス (本院一分院間) に新車両が仲間入り

このたび、本院と岡崎にある本学メディカルセンター間を定期便で結んでいるシャトルバスに、新しい車両が導入されました。これまで、定期便は本学のスクールバスで運行をしていましたが、利便性や今後の運用を考慮し、車椅子用のリフトを備えた「ハイエースバン」を購入することとなりました。

ハイエースバンには、スクールバスと同様に「円滑なる命の流れ」を基本コンセプトとした、「川」、「風」を連想させるイメージの下、穏やかな「流れ」を表現したデザインが施されました。【写真】

今後も安全運転に心掛け、利用者の皆さまに快適な運行をお届けできるよう尽力していきます。



## 新入生ガイダンス実施

令和4年度入学生を対象としたガイダンスが、医学部は4月5日（火）～8日（金）、看護学部は4月6日（水）～8日（金）に実施されました。また、4月13日（水）、20日（水）には、両学部生を対象に「キャンパスハラスメント防止講演会」及び「防犯講習会」が開催されました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、学生を班分けして登校時間をずらしたり、オンライン講演を取り入れるなどの対策を講じて実施されました。

### ◆ 医学部ガイダンス概要

4月5日（火）
医学部長メッセージ
事務連絡等

4月6日（水）
学生生活について
学生相談室の紹介
医学部のカリキュラムについて
・6年間のカリキュラムについて
・1学年次のカリキュラムについて
・履修上の注意及び試験に関する注意
・単位認定・進級留年及び成績評価（GPA制度）
授業、試験等について
基礎科学ガイダンス
新入生研修

4月7日（木）
新入生研修

4月8日（金）
ICTに関するガイダンス
実習衣採寸・注文
課外活動紹介



遠隔授業への対応に備えるICTガイダンスの様子

### ◆ 看護学部ガイダンス概要

4月6日（水）
教務関係オリエンテーションⅠ～Ⅳ
総合学術情報センター（情報基盤部門）利用講習会
学務情報システム説明
出席システム説明等

4月7日（木）
学生生活関係オリエンテーション
学生相談室紹介
防災関係ガイダンス
健康管理ガイダンス
同窓会紹介
総合補償制度Willに係る説明
事務手続き案内
書類提出（学納金、奨学金等）
ロッカー案内

4月8日（金）
施設紹介（運動療育センター、愛知医大サービス、図書館）
講義関係案内
教科書販売



教員による内容説明

## 令和4年度医学部新入生研修実施

令和4年4月6日(水)・7日(木)に、令和4年度医学部入学生を対象とした新入生研修が実施されました。本年度はシミュレーションセンターの6階と8階を使用し、感染対策を講じながら全員参加での実施となりました。

まずは、自己紹介を兼ねたグループ作りを行い、その後、鈴木耕次郎教務部長と早稲田勝久医学教育センター長から医学教育センターの紹介、学生生活の心得、本学カリキュラムの紹介がありました。次に、「あなたはなぜ医師を目指すのか」についてグループワークを実施し、学生は作業を通して徐々に打ち解け合い、活発に議論する姿がみられました。2日目は、基礎医学の細川好孝教授(生化学講座)、高村祥子教授(感染・免疫学講座)、内藤宗和教授(解剖学講座)から、「基礎医学の学び方」と題し、先生方のキャリア紹介、基礎医学の面白さなどを講演していただきました。また、先輩医師からのメッセージとして、医学教育センターの河合聖子講師と血管外科の三岡裕貴助教からは、自身の学生生活を振り返りながら1学年次生に対する激励と温かいメッセージをいただきました。2学年次生(榊原新さん、田染優華さん、姫野由誠さん、渡辺里奈さん)と3学年次生(犬丸果子さん、小田駿一さん、小寺真奈さん、相良大樹さん)の先輩からは、学生生活を始めるに当たってアドバイスを貰いました。

コロナ禍によるコミュニケーション不足を解消するため、今年度は教員との距離を縮めることを目指し、基礎科学・基礎医学の先生方にご協力いただき、



グループワークに取り組む学生たち

教員と自由に話すことができるセッションを設けました。学生は教員から直々に勉強の仕方や、どのように大学生活を過ごしてほしいか等、様々なテーマで話すことができたため大盛況でした。

2日目の午後は、本研修の締めくくりとして、KJ法を用いて「どのような6年間にしたいのか」を各グループで議論し、漢字一文字で表してもらいました。学生からは「輝・勤・志・成・鳥・熱・実・関・育・登・輪・基・歩・磨」という一文字が発表され、この想いを忘れずに6年間を過ごされることを期待したいと思います。

本研修終了後のアンケートでは、「多くの同級生と知り合い、医学部生としての自覚を持つことができた。」「自分が何を目標に勉強したら良いのかを考えるきっかけになった。」など好印象なものが多く、プログラムにご協力いただいた教職員の皆さまには感謝致します。

## 篤志献体者に文部科学大臣から感謝状贈呈

本学の解剖学教育のために献体いただいた次の方々に対し、文部科学大臣から感謝状が贈呈されました。なお、感謝状の贈呈は、献体者のご遺族が受領を希望された方です。

伊藤つや子 殿	稲垣 修 殿	植田 俊男 殿	大津 せつ 殿	岡山 政春 殿
小川太三郎 殿	加藤恵美子 殿	角屋 恵子 殿	川瀬 照子 殿	菊池 稲夫 殿
小久保正一 殿	小山 照代 殿	佐々木テツ子 殿	佐野 愛子 殿	瀧川明栄子 殿
田口 愛子 殿	竹内 榮一 殿	田中 悦子 殿	辻 新市 殿	長井 勝代 殿
永井 秀夫 殿	南雲 キヨ 殿	難波 秀夫 殿	西田 博美 殿	馬場 若秀 殿
林 益司 殿	平野 重夫 殿	福原 いと 殿	藤井 桂 殿	船水 弓乃 殿
星野 正道 殿	三井 一男 殿	諸角 友啓 殿	山中 純子 殿	山邊美佐男 殿

(以上 五十音順)

## 令和4年度看護学部新入生研修実施

看護学部では、令和4年4月11日（月）に「社会に求められる看護専門職者に向けて、はじめの1歩を踏み出そう」をテーマとした新入生研修が実施されました。本研修は、新入生が上級生との交流を通して、専門職者としての振る舞いやマナーを知り、看護大学で主体的に学ぶことへの動機付けができるようになることを目的としています。

午前の部では、少人数グループで学内施設を見学する「キャンパス・オリエンテーリング」が行われました。学内各所に上級生と「ミニゲーム」をする交流ポイントや本学に関する「愛知医科大学クイズ」を回答するチェックポイントが設けられ、新入生も初めは緊張していましたが、時間が経つにつれ笑い声も聞こえ、親睦を深めることができているようでした。

午後の部では、「先輩からのメッセージ」として、2・3・4学年次生から各自の「体験談」や「アドバイス」を含めたメッセージが送られ、次いで、2学年次生から、「看護学部での大学生活について」の紹介などがあり、新入生は真剣な眼差しで聞き



チェックポイントの様子

入っていました。

続いて、外部講師から「大学生として身に付ける接遇・マナー」についての講演が行われ、最後に、本研修を振り返り、看護学部生として明日から始めること、心掛けることについて、個人レポートをまとめました。

本研修は、新入生にとって、これからの大学生活を送る上で、非常に有意義な一日になったことと思われる。

## ハラスメント防止講演会・防犯講習会開催

令和4年4月13日（水）午後4時30分から、21世紀職業財団の清水智子講師によるハラスメント防止講演会がオンラインで開催されました。医学部及び看護学部の新入生と、課外活動におけるハラスメントを防ぐことを目的として、クラブ・同好会の部長も参加し、併せて約240名の学生が参加しました。清水講師からは、大学におけるハラスメントの基礎知識や難しさ、被害に遭っている時の対処方法などについて具体例を交えながらの説明がありました。

また、令和4年4月20日（水）午後4時30分からは、大学本館たちばなホールにおいて愛知警察署から警備課の岡島氏を始め4名の方を講師に迎え防犯講習会が開催され、医学部・看護学部の新入生約220名が参加しました。講師の方には、宗教に関する注意喚起、薬物講話、防犯講話（性犯罪・SNSトラブル等）をテーマに講演していただき、様々な手段で若者に接触・勧誘をして問題視されているカル



防犯講習会の様子

ト宗教について、近年10代・20代の若年層に乱用傾向が増大している大麻を中心とした薬物について、気づかないうちに巻き込まれがちな犯罪についての注意喚起がありました。

この講演会で得た知識を活用して、安心安全な大学生活を送ってくれることを期待します。

## 医学部5診療科の講座設置

教育・研究・診療の更なる発展を期して、令和4年4月1日付で医学部に「総合診療医学講座」、「形成外科学講座」、「臨床感染症学講座」、「病理診断学講座」及び「歯科口腔外科学講座」が設置されました。講座設置に当たり、各講座の初代教授から、次のとおりコメントがありました。

### 総合診療医学講座 前川正人 教授

平成16年に総合診療科が開設され、地域の医療機関や大学病院のニーズに応えられる診療科を目指して取り組んできました。総合診療科では、大学病院における総合診療の充実と診療の効率化、臨床教育の実践の場としてプライマリケアセンターを開設し運用してきました。令和4年4月からは、総合診療医学講座として再出発することとなり、診療はもとより卒前卒後のプライマリケア教育や研究活動においても、今まで以上に充実させていきたいと考えています。

### 形成外科学講座 古川洋志 教授

形成外科医の使命は、高度先進医療や質の高い標準治療を患者さんに提供すること、もう一つは形成外科学の学究の徒として基礎と臨床の両方の研究をしっかりと推し進めることです。「創傷治療」、「再建外科」、「再生医学」、「先天異常」、「体表面補綴」の五つの領域で、基礎と臨床の両面から研究を行い、得られた知見を臨床の様々な課題に活かして参ります。

### 臨床感染症学講座 三鴨廣繁 教授

感染症は、特定臓器に得られた疾患ではないため、横断的な教育・研究・診療が必要な領域です。感染症を制圧するためには、微生物学・感染症学・感染疫学・感染制御学を理解し、実践していくことが必要とされます。私たちの教室では感染症に対して、診断・治療・疫学解析・感染予防・感染制御に関して、基礎医学・社会医学・臨床医学を融合させ、多角的に教育・研究・診療を行っていきます。

### 病理診断学講座 都築豊徳 教授

現在の病理学は、19世紀半ばにドイツの病理学者であるウィルヒョウが提唱した「病気とは細胞の栄養的・機能的・形態的变化による」とした細胞病理学より始まります。この概念は現代医学の根幹をなし、病理診断はその中心的な役割を果たしています。今日では遺伝子検索が加えられ、重要性を増しています。このことから、全ての特定機能病院では、病理診断を専従で担当する部門が設置されています。

今回の講座設置により、更に充実した医療が提供できる態勢を構築できたと考えます。大学法人の慧眼及び患者の期待に答えるべく、更なる発展に尽力していきます。

### 歯科口腔外科学講座 風岡宜暁 教授

歯科口腔外科は、昭和58年10月より診療科として附属病院に新設され、診療を開始しております。また、平成14年4月に「口腔外科学」として大学院が設置され、現在に至っております。

今後は、地域医療への貢献のみならず、愛知医科大学の講座として恥じないよう、研究面においても研鑽致す所存ですので、宜しくお願い申し上げます。

## 令和3年度実験動物慰霊祭挙行

令和3年度医学部実験動物慰霊祭が、令和4年3月7日（月）午後1時から実験動物供養塔前において厳かに執り行われ、医学の教育・研究の発展のための礎となった諸動物の冥福を祈りました。

慰霊祭では、初めに本学の医学研究のために貢献した動物の諸霊に対し、参加者全員で黙祷が捧げられました。続いて、祖父江元 学長、若槻明彦医学部長、佐藤元彦総合医学研究機構長、松下夏樹動物実験部門長から代表献花が行われ、医学研究の発展のため尊い犠牲となった動物たちの霊に哀悼の意を表し、今後とも動物愛護の精神に基づき、更に実験動物の愛護に努めることを誓いました。

その後、コロナ禍における密を避けるために設けられた自由参列時間において、日頃動物実験や飼育



献花を行う若槻医学部長

に携わっている教職員一人ひとりから白いカーネーションの花が献花台に捧げられ、諸動物の冥福を祈りました。

## 春の交通安全講習会開催

令和4年4月21日（木）午後6時から医学部・看護学部の学生を対象に、「春の交通安全講習会」がオンラインで開催され、両学部併せて約280名が参加しました。

講師をお願いした愛知警察署交通課交通総務係地田警部補からは、愛知県内の交通事故の状況が伝えられ、特に横断歩道横断中の事故が多発していることから、思いやりのある運転を心掛けてほしいとの説明がありました。また、道路交通法の一部改正による、運転中の携帯電話等の利用に対する罰則強化や、「あおり運転」等を取り締まる妨害運転罪の創設について説明があり、どちらも絶対にしないよう注意喚起がありました。最後に、勤務中・出退勤時を含む従業員の交通事故防止をミニドラマ的に映像化し、出勤から帰宅するまでの一日の流れに沿って、管理上や事故防止のポイントを解説したDVDを視聴しました。



オンライン講習会を行う地田警部補

講習会終了後には、交通安全に対するWebテストを全25問実施し、「飲酒運転は、車両同乗者への罰則がある」等の交通規則の確認を行いました。

今後も学生一人ひとりが安全運転に努めてくれるように、引き続き啓発活動を続けて参ります。

## 南イリノイ大学医学部PBLコース選考試験体験記

本学では海外の大学と学術協定を締結し、学生の相互交流を行っています。その中で、本学医学部の3・4学年次生を対象としたアメリカの南イリノイ大学医学部PBLコースは一番歴史がある短期留学プログラムです。本プログラムに参加するには選考試験を3回突破する必要があります。早い時期から試験の傾向を知り、事前に試験対策を始めることは重要です。

そこで、選考試験を実際に体験し、勉強法を指導することを目的として、渡辺秀人国際交流センター長による南イリノイ大学医学部PBLコース選考試験体験コースを令和4年4月15日(金)及び20日(水)の2日間行い、15名の学生が参加しました。このコースを終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。



体験コースの様子

### 医学部2学年次生 梶浦 大輝

高校生の時から海外でも医学を学びたいと思っており、今回の体験コースに参加しました。

本コースを受講し、自分の意見を積極的に伝え、議論する姿勢が臨床留学で重要であると知り、海外で学ぶことへの意識が高まりました。自分の考えを正しく英語で表現し、より良い議論をするために、語彙力とリスニング力の強化が私にとっての課題だと気づけたことも大きな収穫です。選考で実際に行われる試験を体験し、選考に向けてどう対策すべきか知ることができ、また、他の参加者のレベルの高さにも刺激を受け、モチベーション向上に繋がりました。

今回の体験コースで得た様々な学びを基に、留学のチャンスに備えようと思います。

### 医学部3学年次生 坂野 太紀

大学に入学する際に海外留学することを考えていたので、今回のプログラムに参加しました。1～4学年次の学生7名と渡辺秀人先生の司会の下に、対面にて選抜試験の二次試験の体験ができました。

まず、始めに驚いたことは、先生が流暢な英語で司会をされていたことと、英語で提示された課題に

ついて全然理解できなかったことです。医学英語の授業や産婦人科の医局にて研究のお手伝いをさせていただく中で、先生方の指導の下に英語論文に触れる機会が何度もあったので、ある程度対応できると考えていましたが、実際はそんなに甘いものではなく、求められる英語力は実際の診療の場面を想定したものであり、診療科を問わず多彩な病名について知っていなければならないと痛切に感じました。

今回、選考試験体験コースを受けてみて、今後は診察場面でよく使われる文章や症状、疾患名についての英語力を自主的に学んでいきたいと思います。

### 医学部4学年次生 梶原 碧夏

私は今回の選考試験体験コースを通して、簡単な英語でも良い、また、間違った発言をしても良いから、素直に自分の意見を述べるということの大切さを学ぶことができたと思います。しかし、まだまだ私は自由に発言できるほどの勇氣はなかったし、知識量も不足しているように感じました。逆も然り、知識量がないからこそ自分の意見を述べるのが億劫になっているという一面もあるように感じました。

これからクリニカル・クラークシップも始まるので、自分の考えを素直に言えるように成長していきたいと思います。また、英語を話すに当たって、難しい言い回しばかり考えてしまうことも多いですが、中学1年生レベルの文章や単語を使うだけでも、すっきりとした言い回しで相手に分かりやすく伝えられるので、考えすぎず気軽に英語を話せたらいいなと感じました。コロナの渦中ですが、英語に触れ合える機会が設けられて、とても良い体験コースでした。

## 令和3年度医学部学生の表彰

令和3年度に他の模範となる活躍をした医学部学生の表彰が行われ、6学年次生の林杏奈さんに対し、祖父江元 学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

林さんは、BMJ case reportに投稿した英文の症例報告「Popeye sign with ecchymosis」が採択・掲載されました。

今回のように表彰される学生が今後も続くことを期待します。



祖父江学長等との記念撮影

## 令和3年度医学研究科・看護学研究科統計セミナー開催

医学研究科及び看護学研究科の合同により、令和3年度は、計10回の統計セミナーが開催されました。

本セミナーは、臨床研究支援センターの大橋渉准教授を講師として、医学研究科及び看護学研究科学生を中心に、病院職員を含めた全教職員を対象として、ZoomによりWeb開催されました。研究における統計学的分析手法の基礎知識を習得する講義・演習となっており、参加者からは、「具体例が多く示してあり、理解しやすかったです。」「シリーズで複数回受講することで、少しずつ理解が深まります。身近な例で分かりやすく、楽しく受講できます。」などの感想がありました。

医学研究科及び看護学研究科では、今後も研究力



の向上を図っていきます。令和4年度も開催予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。令和3年度の開催日及びテーマは、次のとおりです。

No	日時	テーマ
1	5月18日（火）18時～19時	統計の基本のキが大事！～正規分布と記述統計量～
2	6月16日（水）18時～19時	統計的検定の考え方を理解しよう！～群間比較～
3	7月13日（火）18時～19時	医学研究と統計的検定
4	8月24日（火）18時～19時	知っているようで知らない・・・回帰と相関
5	9月15日（水）18時～19時	後ろ向き研究の手順
6	10月19日（火）18時～19時	ロジスティック回帰分析
7	11月30日（火）18時～19時	生存時間解析（Ⅰ）
8	12月21日（火）18時～19時	因子分析と主成分分析
9	1月31日（月）18時～19時	生存時間解析（Ⅱ）
10	3月1日（火）18時～19時	メタアナリシスとは？

## 看護連携型ユニフィケーション推進事業スタート

令和3年度から、看護学部と看護部との看護連携型ユニフィケーション推進事業として、「看護学部生に対する教育内容の質向上」、「看護部職員のキャリア形成」、「学部教員の看護実践能力の向上」の三つの評価指標を掲げ、試行的に活動が開始されました。看護学部・看護部共同で継続教育の充実に焦点を当てた教育計画を立案し、本院看護部職員の協力による教育が実施されています。

令和4年度は、2学年次生を対象に静脈血採血の演習を実施するほか、令和4年4月28日（木）に4学年次生を対象に看護管理論の授業を活用して、「チーム医療、組織マネジメント、病院の医療安全体制への理解について」をテーマとして病院での多職種インタビューとグループワークが行われました。臨床指導者19名がファシリテーターとして参加したことにより、学生からは、安心できる環境の中で演習が実施できたことや、実際の臨床でのエピソードに触れ、チーム医療、医療安全への理解が深まった等の意見が聞かれました。学生にとって、臨床指導者から肯定的なフィードバックや建設的なアドバイスを受けることにより、今後の学修の動機付けや将来への準備性を高める貴重な体験学習となりました。

一方、臨床指導者からは、このような取り組みが学生のリアリテショクの緩和に繋がることや、学生のレディネスを把握して実習指導や新人教育に役立てることができるため、自部署に還元し情報を共有していきたいという意見等がありました。

今後、本格的な事業の実施に向けて更なる基盤づくりと継続的な教育プログラムの構築が期待されます。



臨床工学部でのインタビューの様子



リハビリテーション部でのインタビューの様子



グループワーク・発表の準備



発表の様子

## 看護学部体験入学開催

令和4年3月23日(水)看護学部実習室において、看護学部体験入学が開催されました。これは、高校生が本学の看護学部における講義を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

当日は2部制で実施し、計35名の高校生が参加しました。初めに、母子看護学の山本弘江准教授による体験授業「胎児のひみつ♥-お腹の赤ちゃんのすごい能力-」があり、赤ちゃんについてのクイズを通して、発育や発達の知識を深めました。次いで、母子看護学の小島徳子講師による体験演習「生まれたての赤ちゃんを知ろう!」では、アシスタントを務める看護学部生のサポートを受けながら新生児モデルの頭囲や胸囲の計測を行い、赤ちゃんの抱き方のコツや上手なおむつ交換などの育児技術を学びました。最後に、看護学部生と一緒にドクターヘリとドクターカーを見学しました。



体験授業を受ける高校生たち

参加した高校生からは、「赤ちゃんを抱く経験をしたことがなかったので、実際に体験できて良かった。今までよりも更に看護師になって働きたいと思えた。」「ドクターヘリを目の前で見ることができて感動した。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、看護学の一端を学ぶ有意義な体験となったことと思います。

## 看護学研究科特定行為研修修了証授与式挙

令和4年3月5日(土)午前9時から役員会議室1において、令和3年度特定行為研修修了証授与式が挙

式では、看護学研究科高度実践看護師(診療看護師[NP])コース修了者一人ひとりに対し、祖父江元理事長から修了証書が授与されました。

続いて、祖父江理事長から、「特定行為研修修了者はこれからの医療を担っていく可能性が大いにあります。皆さまの益々のご活躍を期待しています。」との祝辞が述べられ式は終了しました。

\* 高度実践看護師(診療看護師[NP])コース修了後は、特定行為研修修了者として厚生労働省に報告します(38行為21区分)。また、一般社団法人日



祖父江理事長等との記念撮影

本NP教育大学院協議会が実施する「NP資格認定試験」の受験資格が得られます。

## 定年退職教授最終講義

令和4年3月で定年を迎えられた4名の教授の最終講義が大学本館たちばなホールにおいて行われました。長年に亘り、本学の発展に多大なる貢献をしていただき、また、本学の医学教育に対しご尽力くださいました先生方の最終講義には、学内外から多数の方が聴講に訪れました。ここに、先生方の最終講義の様子についてご紹介致します。

### リハビリテーション医学講座

木村伸也 教授 3月2日(水)

#### 【リハビリテーション医学

##### —愛知医科大学における22年—

木村伸也教授は、平成11年7月に本院のリハビリテーション部副部長・助教授として着任、平成30年4月に教授に就任され、本学初のリハビリテーション部専任教員として、診療体制の整備、医学部のリハビリテーション医学教育、専門医の養成等を中心に大変な熱意を持って診療、教育、研究指導に当たってこられました。

最終講義では、リハビリテーションにおいては「疾患だけではなく生活全体をみる必要がある」とされ、人生の質を向上させることを目指した目標指向的アプローチを具体化していくポイントについて講義をしてくださいました。

また、ドクター、理学療法士、作業療法士など多



職種との協働と訓練・治療技術の向上や各種計測により動作を数値化し最適リハビリ方法を導くなどに取り組み、これらの成果を基に心身機能・活動・参加の三つのレベルでゴールを考え、対応の優先順位を決め、実践していくことが重要であるとされました。

### メディカルクリニック

馬場研二 教授 3月9日(水)

#### 【呼吸器診療から新型コロナ後遺症診療：

##### 医師の原点への旅～心からの感謝とともに～】

馬場研二教授は、昭和63年10月に本学へ着任され、これまで呼吸器疾患の診療・研究・教育に従事されてきました。平成24年4月から愛知医科大学メディカルクリニック長を務められ、同施設の診療体制の充実を図り、地域住民の疾病治療や健康増進など、地域医療に貢献されました。また、COVID-19への対応に奔走され、発熱外来や後遺症外来の設置のほか、ワクチン接種事業にも大きく貢献されました。

最終講義では、気道平滑筋におけるカルシウムチャンネルの性質に関する生理学的研究に始まり、喘息に関する臨床薬理学的研究、肺癌の診断に関する研究や教育など、呼吸器内科の臨床医としてこれまでの幅広い活動について紹介されました。



最後に、COVID-19の後遺症診療の実際にも言及し、「患者さんの訴えをよく聞き、丁寧に診療するとともに、患者さんに寄り添った姿勢を持ち続けることが、まさしく医師の原点である。」ことを提言され、講義を終えられました。

## 解剖学講座

中野 隆 教授 3月11日（金）

### 【学無止境—学問には終止も境界もない—】

中野隆教授は、本学医学部の第4期生であり、ご着任以来、医学教育・研究面で大変な熱意を持って本学及び解剖学講座の発展に尽力されました。

最終講義では、多岐にわたる研究や国際交流、視察を通して得られた知見を基に、特に、学生教育に精力的に取り組まれたことについて紹介されました。学生教育の原点は、中国雲南省少数民族の生き仏様の言葉で、先生が座右の銘とされている「学無止境—学問には終止も境界もない」とのことでした。教育においては問題解決能力、応用力を重視すべきであると事例を踏まえ講義をしてくださいました。

実際の学生教育の場においては、解剖学教育の改革を推し進め、問題基盤型学習や臨床思考を重視して症例にアレンジを加えてシナリオを作成し、障害部位を推測させるPBLの導入、系統講義の間に臨床医学講座との統合講義を織り込むことなどを実践さ



れました。

講義の最後に、Medical Science Clubの学生と共著で出版された『骨学のすゝめ』を紹介され、「学無止境の精神は、我が教え子たちの手によって『骨学のすゝめ』として見事に結実した。」と締めくくられました。

## 内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）

伊藤 恭彦 教授 3月17日（木）

### 【私の歩んだ道と次世代へのメッセージ】

伊藤恭彦教授は、本学にご着任以来、内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）の臨床指導に加え、医学部学生、研修医に対する教育、大学院生の研究指導を中心に、大変な熱意を持って診療、教育・研究指導に当たってこられました。

最終講義では、永きにわたって腎臓疾患に関わる研究、その療法への活用やケアシステムの構築に携わってきたことについて紹介されました。研究においては、腎炎の発症メカニズムや腎不全の病態改善、腹膜障害・透析、糖尿病腎症など多岐にわたる基礎・臨床研究に取り組み大きな成果を挙げられました。特に、透析患者の予後の悪化がCRP炎症や腹膜透過性の違いによって起こることについて詳しくご説明していただきました。療法では、血液透析、腹膜透析、移植を上手く組み合わせることで合併症を減らすことがキーであるとされま



した。また、本学腎臓リウマチ膠原病内科の守備範囲は非常に広く、だからこそチーム医療を展開していくことが重要と語られました。

最後に「鍛錬千日・勝負一瞬」や「常識は超えるものである」という言葉を示し、チャレンジ精神の必要性を次世代へのメッセージとし講義を終えられました。

## 大学病院の中央診療部に新たな部門設置

### 腹部ヘルニアセンター

本院では、これまで多くの腹部ヘルニア全般の治療を行い、日本でも有数の実績となりつつあるとともに、学外の医師の手術指導や教育も行ってきました。更なる充実と適切な治療提供を目指し、大学病院としては、日本初の「腹部ヘルニアセンター」が令和4年3月1日付けで設置されました。

腹部ヘルニアは、様々な原因で腹壁や横隔膜を構成する筋肉や組織が脆弱になり、腹腔内臓器が脱出することによって生じる疾患で、治療の遅れは、時

腹部ヘルニアセンター・部長 佐野 力

に嵌頓し、腸管壊死や患者のQOLの低下に繋がります。疾患として代表的な鼠径部ヘルニアのほかに、腹壁ヘルニア（臍、術後瘢痕など）、逆流性食道炎の原因となる食道裂孔ヘルニア、先天性横隔膜ヘルニア、ヌック管水腫など多岐にわたります。

今後は、シームレスに関連診療科と連携を深め、腹部ヘルニアの高度かつ最新・最良の治療を提供するとともに、本院を日本における拠点施設へと発展させるものと期待されています。

### NP部

本院に令和4年4月1日付けで、「NP部」が設置されました。

診療看護師(NP)は、平成20年（愛知医科大学では平成25年）から育成が始まった、まだ発展途上の職種です。米国ではNurse Practitionerという名称で50年以上の歴史があり、すでに地位を確立しています。米国のNPは自立して一定の医療行為を行うことができますが、日本のNPは国家資格としては看護師ですので、医師の指示のもと安全な医療行為を行います。彼らが提供する医療は、医師と看護師の視点を併せ持ったものであり、また、患者さんだけ

NP部・部長 奥村将年

ではなく看護師にも寄り添ったものとなるため、自然と医療に一体感が生まれます。令和4年4月時点のNPの活動は、手術室での麻酔、GICU病棟での全身管理、心臓血管外科の病棟管理が中心ですが、今後は、各診療科の先生方のサポートのもと活動範囲を広げていきたいと考えています。

近い将来、NPが躍進する時代になることが予想されます。医師数の少ない領域、地域医療、医師の働き方改革のためのタスクシフトなど、NPが医療の隙間を上手に埋めてくれることを期待しています。

## 新規採用職員ガイダンス開催

令和4年4月1日（金）に本院新規採用職員（採用・帰局医師、臨床研修医、医療職員等）計116名を対象として、新規採用職員ガイダンスが開催されました。前年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、会場を二会場とし、講義内容は事前に撮影された映像を視聴する形式で実施されました。

このガイダンスは、平成22年度から医療安全を始めとする各部門の院内ルールの周知徹底を目的に開催しています。まず、道勇学病院長から、「病院の

概要及び経営方針」の説明や新規採用医師に対するメッセージがあり、その後、各部門の責任者から主要部署の業務内容、医療安全管理、感染予防対策等の説明が行われました。どの講義も日常の診療業務に直ちに反映されるものばかりであり、参加した新規採用者は真剣な表情で受講していました。

今後、年度途中に採用される病院職員についても同様のガイダンスを実施し、愛知医科大学病院の職員として必要な基本事項を習得した上で、業務に従事していただきたいと思っております。

## 臨床研修医ガイダンス開催

令和4年4月1日（金）から8日（金）まで、本院C棟シミュレーションセンターにおいて、新規採用研修医26名及び研修歯科医2名を対象として、本院における臨床研修に必要な基本的な事項についての「臨床研修医ガイダンス」が開催されました。

### 【写真】

ガイダンスは、中野正吾卒業臨床研修センター長と専任教員・高橋美裕希副センター長から、医師としての心構え等についての講話から始まりました。続いて、電子カルテの操作方法講習やBLS（一次救命処置）講習において、質問への応対や助言、手助けなど、常に先輩の医師が後輩の医師に対応する、いわゆる「屋根瓦方式」の研修が行われました。



このガイダンスの内容は、臨床研修医にとって将来必ず役立つものと期待されます。

## 卒業臨床研修修了証授与式挙行

令和4年3月14日（月）午後5時から大学本館たちばなホールにおいて、卒業臨床研修修了証授与式が挙行されました。

式は、祖父江元 学長を始め、道勇学病院長、若槻明彦医学部長、中野正吾卒業臨床研修センター長及び副センター長等が出席の中、整然と且つ厳かに執り行われました。始めに中野センター長から、医科及び歯科それぞれの代表1名に修了証が手渡されました。引き続き、中野センター長から、「初期研修医を修了した君たちは今後一人前の医師として扱われ、責任を負うこととなる。今まで以上に患者さんファースト、そして患者さんから学ぶという姿勢を忘れないでほしい。誠実な姿勢は必ず誰かが見ており、そして評価をしてくれる。」との告辞があり、その後、各出席者から祝辞がありました。



授与式後の記念撮影

今回修了した31名（研修医29名、研修歯科医2名）のうち研修医23名、研修歯科医1名が本院の医師として、専門医や学位取得を目指すこととなります。本院での臨床研修の経験を生かし、より一層精進されることが期待されます。

## 大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEI様から食料（菓子パン320個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に

深く感謝申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和4年2月1日～4月30日）

## 令和3年度ベストカルテ賞表彰式挙行

令和4年3月16日（水）に病院長室において、ベストカルテ賞の表彰式が行われ、令和2年度のカルテから選出された医師には道勇学病院長から表彰状が手渡されました。ベストカルテ賞は、診療各科で記載されたカルテを「チーム医療」、「医療安全」等の観点から評価し、他の模範となり得るものを選出し、特に優秀であると評価されたカルテを作成した医師を表彰する制度であり、令和2年度から導入されました。

今後、表彰された医師のカルテ記載方法を基に、研修医等を対象としたカルテ記載方法の講習会を開催することを計画しており、より適切なカルテ記載の能力向上への一助となると期待されます。



道勇病院長との記念撮影

ベストカルテ賞を受賞した医師は、次のとおりです。

- 第1位 小児科助教（専修医） 佐田 惇
- 第2位 周産期母子医療センター助教 浅井慎平
- 第3位 外科学講座（心臓外科）教授 松山克彦

## ASGN・クリニカルラダー認定証交付式挙行

令和4年3月25日（金）午前10時から看護部長室において、令和3年度ASGN（Aichi Medical University Hospital Super General Nurse）のクリニカルラダー認定証交付式が執り行われました。

ASGNは、看護部キャリア開発システムにおいてジェネラリストレベルV（特定の看護分野に関わらず、どの対象者に対してもその場に応じた知識・技術・能力を発揮できる者）の実践能力を設定された看護師です。今回、新たに1名が認定され、井上里恵看護部長から認定証が手渡されるとともに、ASGNに対する病院の期待を述べられました。

今後は臨床教育者（Clinical Educator）として、部署の指導、医学生や看護学生の臨地実習指導、院内認定制度Educator研修（静脈注射、膀胱留置カテー



井上看護部長及び看護部副部長との記念撮影

テル管理、化学療法管理）のインストラクターとして、院内研修の企画に携わっていきます。臨床教育者としての活動に期待します。

## 看護師特定行為研修開講式挙行

令和4年4月5日（火）午後1時から大学本館711特別講義室において、看護師特定行為研修開講式が挙行されました。

本院は、令和2年度から看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、クリティカル領域を開講しています。令和3年度は、創傷管理領域を追加開講し、院外からも受講生を受け入れ、令和4年度はクリティカル領域19名、創傷管理領域5名が開講式に出席しました。

式では、道勇学病院長からの激励があり、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長からは、病院の役割と受講生に対する期待を伝えられました。受講生は、高度かつ専門的な知識と技能を身に付けることに対して、気持ちを新たに取り組んでいく様子が伺えました。



令和4年度受講生の皆さん

本院の看護師特定行為研修は、医師、診療看護師、特定行為研修修了者が指導者となり、患者さんに医療行為をタイムリーに行うことができる人材を育成していきます。

## 若葉ナース卒業式挙行

令和4年2月22日（火）大学本館たちばなホールにおいて、若葉ナース卒業式が挙行されました。前年度に引き続き、コロナ禍における感染対策として出席者を若葉ナースと新人教育担当者のみに限定し、2回に分けて行いました。

また、部署では卒業を迎えた若葉ナースと指導をした看護師、責任者とともに1年間を振り返り、若葉ナースの成長をとともに喜びを分かち合いました。今年度も部署から成長のお祝いと労いをメッセージスライドとして映し、温かい卒業式となりました。

この式は、今年度で12回目となり、本院に入職した新卒看護職員が1年間を振り返るとともに、指導に携わった全ての先輩と互いに成長を祝う会となっています。国家試験を取得し、初めて本院に入職した新卒看護職員を「若葉ナース」と呼び、名札には初心者マークを付けて看護実践に携わっていますが、この卒業式をもって初心者マークから卒業しました。



成長のお祝いと労いのメッセージ

式では、井上里恵看護部長から新しい名札とともに、若葉ナースコース研修を終えて初めてのクリニカルラダー（JNAラダー統合版）I認定証が手渡され、新人教育担当者にはお祝いと労いの言葉が掛けられました。

## 看護師特定行為研修修了証授与式挙行

令和4年3月16日（水）午前10時から大学本館711特別講義室において、看護師特定行為研修修了証授与式が挙行されました。

本院では、指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、令和2年度から看護師特定行為研修のクリティカル領域を開講しました。院外を含む看護師17名が、eラーニング講義、演習、修了テスト、臨床能力試験（OSCE）、病院実習を経て修了しました。式では、看護師特定行為研修管理委員会委員長の井上里恵看護部長から修了証が手渡されました。

特定行為研修を修了した看護師は、医師とあらかじめ治療方針の確認を行い、患者さんの状態を見極め、手順書によって特定行為を実施することができます。



授与式後の記念撮影

患者さんの状態に合わせ、必要な医療行為をタイムリーに行うことで、安心して満足していただける医療・看護が提供できることを目指していきます。

## 医学生・看護学生によるアルバイト「愛Crew」の活躍

働き方改革によるタスクシフトの推進に向け、看護師の役割拡大が重要視されています。看護師は多数の業務を抱えて、夜間は3人の看護師が患者の安全を守っています。このため、看護業務の負担軽減と実践的な人材育成の機会提供を目的に令和3年7月から医学生（56名）・看護学生（144名）によるアルバイト「愛Crew」を開始しました。愛Crewの名称は、愛知医科大学の「愛」と働く仲間「Crew」から名付けられています。愛Crewは、午後5時から午後10時までの忙しい夜間帯に看護補助業務者として、看護師の指示の下、専門的判断を要しない物品補充、整理整頓・清掃、配膳・下膳・シーツ交換

などを行います。水色のエプロンを着用し、働いている人が「愛Crew」です。

病棟看護師からは、「細かな周辺業務を行ってくれるため助かる。」「将来一緒に働きたいと思える愛Crewがたくさんいる。」「愛Crewからは、「病院職場の雰囲気を経験できる。」「一緒に働く看護師の様子を見ることができて勉強になる。」などの声があります。アルバイトは実習の補完としての学びの場であり、病院をよく知る機会ともなり、優秀な医療人の育成やチーム力の形成に繋げて行く場となることを期待しています。

[愛Crewの活躍の様子]



## 令和3年度第2回保険診療に関するWeb講習会開催

臨床研修病院においては、全職員を対象とした保険診療に関する講習が、年2回以上実施されていることが必須とされており、令和4年3月23日（水）午後5時30分から午後7時まで令和3年度第2回保険診療に関する講習会が開催されました。なお、今回の講習会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の実施が求められている状況を踏まえ、中央棟3階の共同カンファレンスに設けたサテライト会場からライブ配信により行われました。

講習会のテーマは、「2022年度（令和4年度）診療報酬改定について」と題し、株式会社仲野メディ

カルオフィスの仲野豊氏にご講演いただきました。

令和4年度の診療報酬改定は、(1)地域医療構想、(2)医師・医療従事者の働き方改革、(3)医師偏在対策の「三位一体改革」を進めるための改定内容であり、ポイントを分かり易く解説していただきました。

講習会には、医師、看護師、メディカルスタッフ及び事務職員など幅広い職種から218名の参加があり、絶えず最新の医療情勢、国の医療に対する考え方、方向性をキャッチし、取り組んでいくことが重要であるということを確認した講習会となりました。

## 愛知医科大学メディカルセンター 新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種の3回目接種開始

愛知医科大学メディカルセンターでは、愛知県からの要請を受け、令和3年7月3日（土）から11月19日（金）に亘り新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種会場としての運用を実施してきましたが、令和4年1月31日（月）から3回目接種に係る大規模集団接種会場としての運用が再開されました。また、令和4年2月5日（土）には、愛知県の大村秀章知事が会場を訪れ、接種会場の様子などを視察されました。

これまでに、愛知県枠としてエッセンシャルワーカーの方や18歳以上で愛知県に在住、在学、在勤の方を対象として、平日の午後1時から午後8時まで及び土日の午前10時から午後7時までの間で、一日当たり最大500人程度のワクチン接種を行っており、4月末時点で延べ約20,000人の接種が実施されました。

3回目のワクチン接種に加え、1回目・2回目のワクチン接種も毎週金曜日に開始され、2月中旬からは妊産婦の方へ予約なしで3回目ワクチン接種を実施し、3月からは5歳から11歳の小児への接種も毎週土曜日に開始、4月上旬からは予約なしでの3回目接種が開始されました。



大村知事による会場視察の様子



小児接種の受付

今後も一般市民の皆さまが安心して接種できるよう、職員一丸となって努めて参ります。

## 愛知医科大学メディカルセンター コロナ後遺症外来開設

令和4年3月14日（月）から、新型コロナウイルス感染症の罹患後も長期に亘って何らかの症状（いわゆる「コロナ後遺症」）がある患者さんを対象とした外来診療「コロナ後遺症外来」が愛知医科大学メディカルセンターに開設されました。令和3年4月から愛知医科大学メディカルクリニックにおいて診療を行ってきましたが、診療体制の変更に伴い、コロナ後遺症外来の拠点をメディカルセンターに移動したことです。

コロナ後遺症は、全身倦怠感、労作時の息切れ、記憶障害、思考力の低下、からだの痛み、脱毛など、多岐にわたるだけでなく、これらの症状がいくつも

重なって起こります。メディカルセンターでは、慢性疲労症候群の診療に経験豊富な総合診療科のほか、呼吸器内科、皮膚科を始め、痛みを専門とする疼痛緩和外科などがあり、診療科間の緊密な連携の下、一人の患者さんを総合的に診療していくことを心掛けています。

コロナ後遺症で苦しむ患者さんに寄り添い、共に考えながら、少しでも苦痛の軽減に繋がるように努力するとともに、コロナ後遺症の病態や病像に関する学問的観点についても、患者さんの診療を通じて明らかにできるよう努めて参ります。

## 愛知医科大学メディカルセンター 心に寄り添うふれあい広報誌「ひいらぎ」創刊号発刊

愛知医科大学メディカルセンターでは、令和4年4月に心に寄り添うふれあい広報誌「ひいらぎ」の創刊号が発刊されました。【写真】ご利用になる方への案内や、暮らしに役立つ情報などを発信していきます。

広報誌を発刊するに当たり、分院に所属する全職員に名称を公募した結果、「ひいらぎ」に決定しました。名称の由来は、本院の広報誌である「たちばな」と同様に、植物であること。そして、「ひいらぎ」の花言葉が「先見の明、用心深さ、保護」であり、患者さんの将来を見据えた医療や看護を提供するとともに、プライバシーや個人情報の保護など、職員が日頃から大切にしていることを想起させることも、由来の一つです。また、表紙の挿絵には、以前から季節に合わせた絵手紙の展示をしてくださっている岡崎市の絵手紙ボランティアグループ「集まる

まい」様の作品が掲載されており、引き続き表紙絵へのご協力をいただく予定です。

今後「ひいらぎ」では、地域の皆さまからのご投稿作品（写真、俳句や川柳、文芸作品など）も掲載していく予定です。一方通行の情報発信だけではなく、双方向のやりとりを大切にすることで、地域の皆さまの心に寄り添うふれあい情報誌としての役割を果たし、地域活性化の一助となることを願っております。



## 愛恵会トピックス（ポケトーク病院助成）

一般財団法人愛知医科大学愛恵会は、公益法人制度改革で平成25年4月に財団法人愛恵会から名称が変わりました。事業の一つとして、大学・病院内において簡易郵便局、病棟テレビ事業等の収益を原資に、助成事業（学会助成、地域助成、病院助成）を行っています。

この度、愛知医科大学病院からの要望を受け、患者さんに対する生活必需品等の便宜供与事業（病院助成）として、翻訳が必要な病棟・外来の患者さんに円滑な診療を行うため「ポケトークS（高強度AI翻訳機）」【写真】を17台導入しました。各病棟やインフォメーションカウンター等において、患者サービスの一層の充実にポケトークをお役立ててください。



## 先制・統合医療包括センター・福澤 嘉孝教授 米国内科学会FACP称号授与

先制・統合医療包括センター・教授

愛知医科大学同窓会 愛橋会・会長 福澤 嘉孝（7期生）

本邦では令和2年2月以降コロナ禍となり、断続的な緊急事態宣言下に、何か社会や医療に貢献できないかと考える中で、令和3年3月に米国内科学会（American College of Physicians：ACP）の応募審査において、FACP（Fellow of American College of Physicians）の称号を本学在校生として初めて授与しました。

FACPは、米国内科学会において名誉上級会員と位置付けされており、北米において内科医師が目標とする非常に名誉ある称号・ステータスの一つです。FACPへの審査・合格には、既にFACPを取得済みの医師2名からの推薦状が必須となり、会員の経歴や研究・教育業績及び社会・医療貢献など、様々な項目に関してエビデンスも含め厳格に審査・評価されます。

FACPの称号を授与されると、例年春季に年次総会内において開催されるConvocation ceremonyに招待され、荘厳な雰囲気の中で行われる戴冠式典に出席する予定でしたが、コロナ禍のため参加することができませんでした。式典後の懇親会にも出席できなかったため、米国New Fellowの友人医師達との歓談や連絡先の交換など、有意義な時間を過ごす

ことができず、本学の国際交流に貢献できなかったことが非常に残念です。

本学同窓会「愛橋会」は令和3年6月から新体制となり、イノベーティブなグローバルビジョンを明確化し具現化するための8本の大きな柱の一つとして、「学術・教育のより一層の発展」を目指すことを明記しています。（同窓会HP：<http://www.aichi-med-u.ac.jp/dousoukai/index.html>）ACP日本支部（[info@acp-japan.org](mailto:info@acp-japan.org)）も積極的な応募を支援・協力してくれますので、同窓会員の皆さまにおかれましては、是非ともFACP称号の授与を目指して邁進していただきたいと思います。

末筆となりましたがFACP称号授与に当たり、コロナ禍でご多忙の折、推薦状の作成を快諾いただき、ご助言・ご奨励いただきました同窓生の後輩でもある阪野クリニックの阪野勝久院長、太田内科クリニックの太田隆之院長に心より感謝申し上げます。

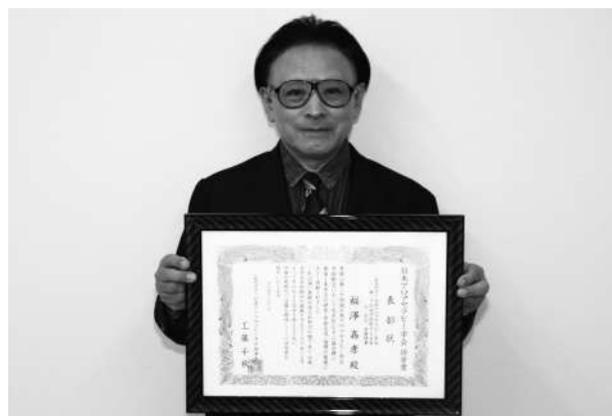


## 先制・統合医療包括センター 福澤 嘉孝教授 アロマセラピー学会功労賞受賞

先制・統合医療包括センターの福澤嘉孝教授【写真】が、令和3年12月11日（土）から12日（日）の2日間にわたりWeb開催された、第24回日本アロマセラピー学会学術総会において功労賞を受賞されました。

これは、第6波コロナ禍において完全Web体制下で本学会の研究・学术交流・倫理発展に大きく寄与し、一般社団法人日本アロマセラピー学会の工藤千秋理事長との連携強化の下、第24回総会の運営・企画統括委員長として、リハーサルが無いにも関わらず何のトラブルもなく2日間の開催を盛会裡に終了させたことが高く評価されたものです。学会としては初の試みでしたが、演題数・参加者数ともに非常に多く、愛知での学会開催に伴う“愛知宣言”が達成されました。

受賞された福澤教授からは、「この度は名誉ある



賞をいただき、大変光栄に存じます。これも工藤理事長を始め関連各位のご支援・ご協力並びにご指導のおかげと深謝しております。今後も、なお一層精進していく所存でございますので、ご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。」との感想がありました。

## 中央放射線部 大澤 充晴主任 第78回日本放射線技術学会総会学術大会CyPos賞銅賞受賞

中央放射線部の大澤充晴主任【写真】が、令和4年4月14日（木）から17日（日）までパシフィコ横浜にて開催された第78回日本放射線技術学会総会学術大会において、CyPos賞銅賞を受賞しました。

これは、東海地区における水晶体の等価線量限度引き下げに伴う対応に関するアンケート調査の実施が高く評価され選定されたものです。

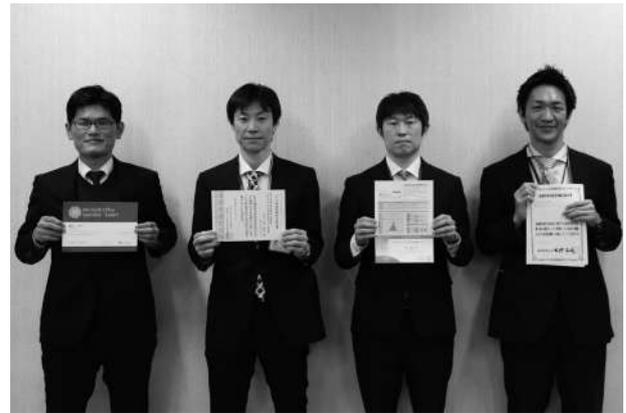
受賞された大澤主任からは、「東海地区の多くのご施設からアンケートへのご協力を賜り報告させていただいた本発表が、栄えある『CyPos賞銅賞』に選定され、とても栄誉のあることと感動しております。本当に心から感謝申し上げます。感謝の気持ち



を忘れず、今後もより一層、臨床に有用な技術の研究を積み重ねて参ります。この度は誠にありがとうございました。」との感想がありました。

## 事務職員資格取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針のもと、事務部門では、「具眼」に当たる具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。令和3年4月から令和4年3月までに、計9名の事務職員が、各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。習得した知識・技能を業務へ活かしていただき、更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



医療情報技師能力検定試験	医療情報管理課 是木 悟主事 (R3.10.31)
知的財産管理技能検定3級	研究支援課 小栗徹也主査 (R3.12.21)
Illustrator®クリエイター能力認定試験	教 学 課 野々健太主事 (R3.7.10)
ITパスポート試験	人 事 ・ 厚 生 室 井上晶人主任 (R3.4.14) 医療情報管理課 柚木翔伍主事 (R4.2.15)
Microsoft Office Specialist-Expert (Excel, Access) Microsoft Office Specialist-Associate (Excel, Word, PowerPoint)	学 生 課 藤田智久主査 (R3.12.12) (R4.1.23)
Microsoft Office Specialist Excel Expert 2019	総合物流センター事務室 加藤佑輝主事 (R4.3.5)
Microsoft Office Specialist Office Excel 2016	医療情報管理課 小野佑介主事 (R3.10.17)
Microsoft Office Specialist Word 2019	総合学術情報センター事務室 志知孝一主任 (R4.3.20)

※資格取得当時の所属と役職を記載



# 学 術 振 興

## 研究助成等採択者

◇公益財団法人中富健康科学振興財団

研究助成金（令和3年度(第34回)）

・氏名 榊原伊織（生理学講座・講師）  
 研究題目 運動によるエピゲノム制御機構の  
 解明  
 助成金額 1,500,000円

◇一般財団法人中京長寿医療研究推進財団

第10回（令和3年度）医学研究助成金

・氏名 森下啓明（糖尿病内科・講師）  
 研究題目 膵β細胞の小胞体ストレス関連死  
 に関する検討  
 助成金額 300,000円

◇公益社団法人日本糖尿病協会

若手研究者助成（2021年度）

・氏名 森下啓明（糖尿病内科・講師）  
 研究題目 膵β細胞の小胞体ストレス関連死  
 に関する研究  
 助成金額 800,000円

◇武田品工業株式会社

Takeda Japan Medical Office Funded Research  
 Grant 2022

・氏名 佐々直人（泌尿器科学講座・教授）  
 研究題目 前立腺癌（IDC-P）診断における  
 直聴診後尿細胞診の有効性の検討  
 助成金額 2,000,000円

◇公益社団法人日本糖尿病協会

メディカルスタッフ育成研究助成（2021年度）

・氏名 柴田由加（中央臨床検査部・主任）  
 研究題目 糖尿病性神経障害（DPN）の診  
 断法と療養指導手法の確立  
 助成金額 400,000円

◇公益財団法人高橋産業経済研究財団

研究助成（令和4年度）

・氏名 小西裕之（生化学講座・教授(特任)）  
 研究題目 医療応用を指向する安全で高精度  
 な新規ゲノム編集法 tandem  
 paired nicking法の開発研究  
 助成金額 2,000,000円

◇一般財団法人救急振興財団

救急に関する調査研究事業助成（令和4年度）

・部署 救命救急科  
 研究題目 災害時現場活動における救助医療  
 連携で必要となる狭隘空間におけ  
 る輸液方法と投与速度の検証  
 助成金額 1,000,000円以内

◇一般社団法人日本移植学会

JST basic research grants 2021

・氏名 前仲亮宏（薬剤部・薬剤師）  
 研究題目 de novo DSA産生制御のための  
 Indirect Alloresponseに特化した  
 先制的免疫モニタリングの開発  
 助成金額 2,000,000円

## 令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
再生医療実現拠点ネットワークプログラム疾患特異的iPS細胞の利活用促進・難病研究加速プログラム	岡田洋平 医学部 内科学（神経内科）准教授	39,000,000	神経・筋相互作用を標的とした運動神経疾患の病態解明と治療開発
創薬基盤推進研究事業	祖父江元長	30,000,000	大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発（企業拠出分）
創薬基盤推進研究事業	祖父江元長	27,000,000	大規模疾患レジストリとiPS細胞技術を活用した筋萎縮性側索硬化症に対する新規治療薬開発（AMED拠出分）

- ・令和4年4月1日から30日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載（変更契約を含む）
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む

# 学位授与

## ◆大学院医学研究科



森 一直

学位授与番号 甲第610号  
学位授与年月日 令和4年2月24日  
論文題目：「Effect of Intensive Care Provided by Nurse Practitioners for Postoperative Patients: A Retrospective Observational Before-and-After Study (術後患者に対する診療看護師(NP)による集中治療の効果：レトロスペクティブな前後比較による観察研究)」



田中 創

学位授与番号 甲第613号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「Identifying participants with knee osteoarthritis likely to benefit from physical therapy education and exercise: A hypothesis - generating study (理学療法の教育と運動療法が効果的である変形性膝関節症患者の特定：仮説生成研究)」



岡本 卓也

学位授与番号 甲第611号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「The Cut-off Value of Physical Activity for Undergoing Total Knee Arthroplasty in Patients with Knee Osteoarthritis (変形性膝関節症患者に対する人工膝関節全置換術適応の身体活動量カットオフ値)」



谷口 奈都希

学位授与番号 甲第614号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「Clinicopathological analysis of malignant or premalignant cutaneous neoplasms in recipients of kidney transplant in a Japanese population (日本人腎移植後患者における皮膚前癌病変及び癌についての臨床病理学的検討)」



坂本 慎太郎

学位授与番号 甲第612号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「Analysis of T and B Cell Epitopes to Predict the Risk of *de novo* Donor-Specific Antibody (DSA) Production After Kidney Transplantation: A Two-Center Retrospective Cohort Study (腎移植後患者における新規ドナー特異的抗体産生リスク予測のためのT細胞およびB細胞エピトープ解析)」



中村 文乃

学位授与番号 甲第615号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「Synergistic Effects of Venetoclax and Daratumumab on Antibody-Dependent Cell-Mediated Natural Killer Cytotoxicity in Multiple Myeloma (多発性骨髄腫における抗体依存性細胞調節性NK細胞傷害活性のVenetoclaxとDaratumumabによる相乗効果)」



**前嶋 竜八**

学位授与番号 甲第616号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Reliability of an Intraoperative Radiographic

Anteroposterior View of the Spinal Midline for Detection of Pedicle Screws Breaching the Medial Pedicle Wall in the Thoracic, Lumbar, and Sacral Spine (胸腰仙椎における椎弓根スクリュー内側逸脱に対するレントゲン正面像での正中線評価法)」



**齋藤 拓也**

学位授与番号 甲第619号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Hypoalbuminemia is related to endothelial dysfunction

resulting from oxidative stress in parturients with preeclampsia (妊娠高血圧腎症妊婦における、活性酸素が及ぼす血管内皮機能障害と低アルブミン血症との関連性)」



**モハマド ジュナイド ナイーム**

学位授与番号 甲第617号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Imatinib mesylate inhibits androgen-independent

PC-3 cell viability, proliferation, migration, and tumor growth by targeting platelet-derived growth factor receptor- $\alpha$  (イマチニブは血小板由来成長因子 $\alpha$ 受容体を阻害し、アンドロゲン非依存性前立腺がん細胞PC-3細胞の生存、増殖、遊走、腫瘍形成を抑制する)」



**後藤 真奈美**

学位授与番号 甲第620号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Evaluation of an MRI/US fusion technique for the

detection of non-mass enhancement breast lesions detected by MRI yet occult on conventional B-mode second-look US (MRIで初めて検出され、通常のBモードによるセカンドルックUSでは同定できなかった非腫瘍性乳房病変を検出するためのMRI/US融合技術の有用性)」



**ムハマド ルットウフル ラーマン**

学位授与番号 甲第618号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Experimental strategies to achieve efficient

targeted knock-in via tandem paired nicking (tandem paired nicking法によって効率的なノックインを行うための実験戦略)」



**大脇 佑樹**

学位授与番号 甲第621号

学位授与年月日 令和4年3月5日

論文題目：「Placental hypoplasia and maternal organic vascular

disorder in pregnant woman with gestational hypertension and preeclampsia (妊娠高血圧症と妊娠高血圧腎症における胎盤形成不全と母体器質的血管障害)」

**有吉 理**

学位授与番号 甲第622号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「*Clostridium butyricum* MIYAIRI 588 Modifies Bacterial

Composition under Antibiotic-Induced Dysbiosis for the Activation of Interactions via Lipid Metabolism between the Gut Microbiome and the Host (*Clostridium butyricum* MIYAIRI 588は抗生物質起因性dysbiosisにおいて腸内細菌叢を改変し、宿主との脂質代謝を介した相互作用を活性化する)」

**櫻井 啓貴**

学位授与番号 甲第626号  
 学位授与年月日 令和4年3月10日  
 論文題目：「Quality of life for patients with psychogenic non-

epilepsy seizures in comparison with age- and gender-matched epilepsy patients - cross-sectional study (年齢および性別に一致したてんかん患者と心因性非てんかん発作患者の生活の質の比較 - 横断的研究)」

**清水 昭雄**

学位授与番号 甲第623号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「Nutritional Management Enhances the

Recovery of Swallowing Ability in Older Patients with Sarcopenic Dysphagia (栄養管理は高齢サルコペニアの嚥下障害患者の嚥下能力回復を促進する)」

**森 久剛**

学位授与番号 甲第627号  
 学位授与年月日 令和4年3月10日  
 論文題目：「Neutrophil extracellular traps are associated with altered

human pulmonary artery endothelial barrier function (好中球細胞外トラップとヒト肺動脈内皮バリア機能の変化との関連)」

**松山 怜実**

学位授与番号 甲第624号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「Evaluation of skeletal muscle mass using prediction

formulas at the level of the 12th thoracic vertebra (第12胸椎レベルの予測式による骨格筋量の評価)」

**有馬 隆紘**

学位授与番号 甲第628号  
 学位授与年月日 令和4年3月24日  
 論文題目：「Site-specific mechanical properties of the human great saphenous vein: Cadaveric comparisons among the thigh, knee, and lower leg harvest sites (同一個体における大伏在静脈の部位別の力学的特性：ご遺体での大腿部、膝部、および下腿部の比較)」

**下田 博美**

学位授与番号 甲第625号  
 学位授与年月日 令和4年3月10日  
 論文題目：「*Kir6.2*-deficient mice develop somatosensory dysfunction and axonal loss in the peripheral nerves (*Kir6.2*欠損マウスは体性感覚機能障害と末梢神経における軸索減少を呈する)」

**山本 侑季**

学位授与番号 甲第629号  
 学位授与年月日 令和4年3月24日  
 論文題目：「Cytokeratin 5/6 expression in pT1 bladder cancer predicts intravesical recurrence in patients treated with Bacillus Calmette-Guérin instillation (Cytokeratin 5/6発現によるBacillus Calmette-Guérin注入療法を行ったpT1膀胱癌患者における膀胱内再発)」



**佐久間 隆介**

学位授与番号 甲第630号  
学位授与年月日 令和4年3月24日  
論文題目：「Sendai virus C protein affects macrophage function, which plays a critical role in modulating disease severity during Sendai virus infection in mice (センダイウイルスC蛋白質はマクロファージの機能に影響を与え、センダイウイルス感染症の重症度の調節に重要な役割を果たしている)」



**伊藤 真弓**

学位授与番号 乙第413号  
学位授与年月日 令和4年2月3日  
論文題目：「Association between serum magnesium levels and abdominal aorta calcification in patients with pre-dialysis chronic kidney disease stage 5 (透析導入前の慢性腎臓病ステージ5期の患者における血清マグネシウム濃度と腹部大動脈石灰化との関連)」



**角田 拓実**

学位授与番号 乙第414号  
学位授与年月日 令和4年2月24日  
論文題目：「*ENTREP/FAM189A2* encodes a new ITCH ubiquitin ligase activator that is downregulated in breast cancer (乳がんで発現低下している*ENTREP/FAM189A2*はITCHユビキチンリガーゼの新規活性化因子をコードする)」



**佐治 木萌**

学位授与番号 乙第415号  
学位授与年月日 令和4年3月10日  
論文題目：「Impact of antiepileptic drugs on simulated driving in patients with epilepsy (てんかん患者における抗てんかん薬内服による運転への影響)」



**樋口 朋子**

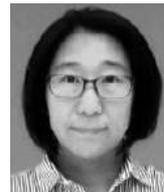
学位授与番号 乙第416号  
学位授与年月日 令和4年3月10日  
論文題目：「Versican contributes to ligament formation of knee joints (バーシカンは膝関節の靭帯形成に寄与する)」



**林 富雄**

学位授与番号 乙第417号  
学位授与年月日 令和4年3月10日  
論文題目：「Tumor-infiltrating FoxP3+ T cells are associated with poor prognosis in oral squamous cell carcinoma (腫瘍に浸潤したFoxP3+ T細胞は口腔扁平上皮癌の予後不良と関連する)」

◆大学院看護学研究科



**後藤 香織**

学位授与番号 第146号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「3年課程看護師養成所看護教員の就業継続を支えるレジリエンス」



**佐川 沙紀**

学位授与番号 第147号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「運動器慢性疼痛をもつ対象者の電話相談に応じる相談員の経験」



**佐藤 優子**

学位授与番号 第148号  
学位授与年月日 令和4年3月5日  
論文題目：「特定保健指導に従事する委託保健師の職務実態と課題」

**水野 竜斗**

学位授与番号 第149号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「新人訪問看護師の在宅ターミナルケアにおける体験」

**野澤 多恵**

学位授与番号 第155号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「医師と診療看護師(NP)との協働実践に関する質的研究」

**南 千晴**

学位授与番号 第150号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「健康経営に関わる産業保健師の活動内容と課題」

**平井 克城**

学位授与番号 第156号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「フライトドクター・フライトナースの多職種連携コンピテンシーに関する全国調査」

**杉坂 衣莉加**

学位授与番号 第151号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「NICU看護師のケアにおけるMRSA伝播リスクの認識と感染予防ケアの実施状況」

**松元 亮二**

学位授与番号 第157号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「診療看護師(NP)におけるエンパワメントについての検討」

**片田 将司**

学位授与番号 第152号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「遷延性人工呼吸に至る患者リスク因子の検討 - 1施設の後ろ向き観察研究 -」

**三輪 由希**

学位授与番号 第158号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「パーキンソン病患者が感じる医療者の対応 - 質問紙調査によるQOLとの関連性の量的分析 -」

**柁野 優子**

学位授与番号 第153号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「外来看護師が認識する地域包括ケアにおける外来看護の役割 - 外来看護師によるグループディスカッションからの検討 -」

**山本 篤**

学位授与番号 第159号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「奄美大島の住民であり医療者が求めるルーラルナーシング - 離島へき地における診療看護師(NP)の役割の考察 -」

**中村 純江**

学位授与番号 第154号  
 学位授与年月日 令和4年3月5日  
 論文題目：「消化器内視鏡技師資格をもつ看護師のワーク・エンゲイジメントと自律性との関連」

## 本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・ 東海・北陸ペインクリニック学会第31回東海地方会	令和4年2月26日（土）	牛田 享宏
・ 第11回日本小児禁煙研究会学術集会	令和4年3月13日（日）	鈴木 孝太
・ 第138回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	令和4年4月8日（金）・9日（土）	出家 正隆
・ 第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会東海支部学術集会	令和4年4月10日（日）	伊藤 理

### 東海・北陸ペインクリニック学会第31回東海地方会

学際的痛みセンター・教授 牛田 享宏

令和4年2月26日（土）に東海・北陸ペインクリニック学会第31回東海地方会が完全Web開催として行われました。

近年、神経科学の進歩とともに痛みの診療は、その考え方や対応が大きく変わってきています。特に、神経障害性疼痛や頭痛領域においては、新しい作用機序の薬剤が次々と開発されています。一方で、モルヒネ系の薬が非がん領域に導入されてきた結果、依存を抱え、痛みから脱却できない悪循環に陥っている患者も多くなっている実情があるのです。新しい慢性疼痛診療ガイドラインの制定などは、難しい疼痛患者さんたちにどのように対応していくかという指針になると考えられますが、まだまだ課題も多いです。

そこで、学際的痛みセンターでは本学会を主催するに当たり、テーマを「痛みの診断・治療を科学する」とさせていただき、昨年TRPVチャンネルでノーベル賞を受賞したグループの一員である富永真琴先生（生理学研究所教授）、脊髄損傷の再生医療の実用化を果たした山下敏彦先生（札幌医科大学理事長）並びに疼痛の催眠療法の第一人者である水谷みゆき先生（三重催眠研究センター所長）に最新の研究や医療に関するご講演をいただきました。また、一般演題は27題と、東海北陸以外の地区からもいただくことができました。

コロナ禍の中、多くの参加者はZoomによる運営に慣れていたこともあり、大変多くの参加を頂き盛況だったことに感謝を申し上げます。

### 第11回日本小児禁煙研究会学術集会

衛生学講座・教授 鈴木 孝太

令和4年3月13日（日）にウインクあいちを会場として、第11回日本小児禁煙研究会学術集会が、オンラインを併用したハイブリッド形式で開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年、対面での学術集会は開催されておらず、3年ぶりの開催となりました。講座スタッフがZoom配信を担当する手作りのコンパクトな学術集会で、現地、オンラインそれぞれ20人ずつの参加となりました。

今回は、「タバコのない生涯を目指して～環境と行動変容という視点から～」というテーマで、私の

これまでのDOHaD説に沿った研究成果の紹介に始まり、特別講演では、山梨大学の山縣然太郎先生にエコチル調査や甲州プロジェクトなどの出生コホート研究からのエビデンスや国の母子保健施策における喫煙対策をご紹介いただきました。午後の教育講演では、福島県立医科大学の後藤あや先生のヘルスリテラシー、本学看護学部准教授の谷口千枝先生の行動変容ステージについて、喫煙対策にはもちろん、様々な予防行動を促す実践に役立つ内容を学ぶ機会となりました。一般演題7題についても、現地、オンライン両方の発表がありましたが、どれも興味深

い報告で、また、現地のみならず、オンラインからも質問が飛び交い、とても有意義なディスカッションになったと感じています。

このような形式での学術集会は、研究会として

も初めての試みでしたが、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援により、大過なく終了できましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 第138回中部日本整形外科災害外科学会学術集会

名誉教授（整形外科） 出家 正隆

令和4年4月8日（金）・9日（土）に、第138回中部日本整形外科災害外科学会学術集会が開催されました。完全現地参加での開催を模索していましたが、状況を配慮してハイブリッド形式としてウインクあいちでの開催とライブ配信、更には、令和4年5月9日（月）までのオンデマンド形式での開催となりました。

本学術集会のテーマは、令和4年度が愛知医科大学創立50周年に当たることも鑑み、「具眼考究」と学是をそのまま使わせていただきました。本学会は、中部、関西、中四国地域の整形外科医から構成された約6,000人の会員の中で、比較的若手の先生方に発表・参加していただいております。ここ2年、現地での開催ができず、演題数の減少が危惧されたのですが、会場にも多くの先生が来場され、最終的に約1,100名を超える参加者を得ることができました。

学術集会では、特別講演をノーベル賞学者の天野浩先生に、文化講演を徳川美術館の徳川義宗館長より賜りました。また、愛知医科大学整形外科創立50周年特別企画・レジェンドセミナーとして、関西医科大学名誉教授の飯田寛和先生、名古屋大学手外科講座教授の平田仁先生に講演していただきました。シンポジウム8題、主題13題とし、17テーマによる教育研修講演、12テーマによるランチオンセミナーを企画しました。久しぶりの現地開催でしたので、会場、Webからも活発な討論が行われ、実り多い学会だったのではないかと自負しております。

末筆になりますが、本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 東海支部学術集会

内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）・教授 伊藤 理

令和4年4月10日（日）に第8回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会東海支部学術集会が開催されました。新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の感染流行と重なったこともあり、名古屋市の栄ガスビルを配信会場としたWeb開催となりました。

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会は、医師、理学療法士、看護師、薬剤師など、呼吸器診療、呼吸ケアに関わる多職種が集う組織であり、今回100名を超える方に参加登録及び視聴していただくことができました。口演演題のセッションでは、

本学からGICU看護部の分造健太主任が看護師特定行為により人工呼吸器離脱に繋がった症例を、呼吸器・アレルギー内科の天野瞳助教（専修医）が特発性肺線維症に併発した巨大肺嚢胞の症例を発表してくださり、いずれの演題も質が高く、貴重な内容でした。関係する皆さまのご支援、ご協力のお陰で成功裏に終えることができました。

本学会の開催に際しまして、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

# 「教育・研究最前線」

## 総合力のある医師育成過程における臨床・教育・研究の重要性

産婦人科学講座・教授 若槻 明彦

### 【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

産婦人科では、医学部学生に対する卒前教育と初期研修医及び後期研修医のサブスペシャリティに向けた教育を行っております。本学医学部では、グローバルスタンダードを目標とした日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を令和元年9月に受審し、多くの評価項目をいただき、適合の承認を得ました。一方で、幾つか指摘された点もあり、これらの改善を意識した教育を行っております。臨床実習では、週1回の臨床カンファレンスの際に、手術前患者や外来、入院患者のプレゼンテーションを学生や初期研修医が行い、論理的思考のもと的確な診断と治療を導き出せるように教育しています。また、学生と初期研修医も各臨床グループに属して、特に屋根瓦式教育の実践を重要視しております。臨床講義では、国家試験に合格する教科書的な基本知識は言うまでもありませんが、国内外の最先端の知識と考え方を包含した講義を行うことも心掛けております。後期研修医においては、産婦人科のサブスペシャリティである周産期、生殖内分泌、腫瘍、女性医学の四つの領域が経験できる環境を整えており、専門医や学位が取得できるシステムを構築しています。

### 【世界に発信する医学研究】

私たちの教室には三つの研究グループが存在します。

まず、女性医学グループではエストロゲンを中心にした女性ホルモンと動脈硬化との関係についての研究を、また、最近では子宮内膜症女性における脂

質代謝と血管内皮機能についての研究が行われています。この分野での研究成果は、世界の循環器領域のトップジャーナルであるCirculationなどに数多く掲載されております。

二つ目の研究グループは、同じ女性医学の分野ですが、動物実験を中心とした骨粗鬆症における骨代謝に関する研究を行っており、大学院生の学位論文が多数作成されております。

三つ目は、周産期グループです。妊娠高血圧症候群妊婦での活性酸素による酸化ストレス亢進と母体の血管内皮や胎盤機能障害との関連性に関する研究が中心で、その成果は多くの大学院生の学位論文となっています。また、最近では、蛋白尿を認める妊娠高血圧腎症の尿中蛋白排泄と腎障害との関係についても研究しております。

### 【部署からの一言】

産婦人科では、教育・研究以外の臨床部門においては年間手術件数約1,000件、分娩件数約500件と数多くの診療を行っております。臨床、教育、研究は各々全く異なるように思うかもしれませんが、研究における論理的思考のもとに行われる立案、研究成果に対する考察などの全てのプロセスは、臨床におけるエビデンスに基づいた的確な診断と治療を行う資質を養うための最適な教育方法だと思います。このように、臨床・教育・研究は、それぞれが知識と技量を兼ね備えた総合力のある医師を育てるために重要ですので、今後もバランスのとれた教育を継続するように努力する所存です。



医局員集合写真



カンファレンスの様子

## 「学び」は深く

眼科学講座・教授 瓶井 資弘

### 【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

医学の発達と社会の変化とで、医学部生は膨大な量の勉強をこなさなければならなくなりました。ともすれば、「学び」は試験をパスするための暗記優先になってしまい、味気なく感じることもあるでしょう。しかし、もう少し深く掘り下げて勉強すると、おのずと様々な疑問が湧いてきます。そうすると、次に疑問に対する答えが知りたくなります。そして、成書や文献を調べます。その繰り返しを地道に積み重ねることで得られた知識は、頭にしっかりと残ります。また、疑問に対する「学び」から世紀の大発見が生まれるやもしれません。

眼は前後径約2.4cmという小さな臓器に過ぎませんが、視覚情報処理過程の最初の段階を担う重要な役割を果たしており、眼を理解するためには解剖学、生理学など基礎医学も含め広い知識が必要になります。眼科学講座では、臨床講義、クリニカルクラークシップを通して眼科学の魅力を伝えられるように、様々な「学び」の機会を用意しています。

時間は有限で、思いのほか早く過ぎ去ります。二度と来ない学生時代の「学び」を単なる暗記で終わらせることがないように、是非、沢山の疑問を持って眼科の臨床実習に臨んで欲しいと思います。

### 【世界に発信する医学研究】

本学眼科学教室では、その結果で「治療法が変わる・新しい治療法が生まれる」か「病気の新しいメカニズムが分かる」もの、という視点で研究をしています。



医局員集合写真

### <基礎研究>

網膜静脈閉塞症や糖尿病網膜症により生じる無灌流領域に対する「血行再建治療」と網膜色素変性や網膜剥離に伴う網膜細胞死に対する「細胞保護治療」の研究を行っています。我々は、抗凝固作用や神経保護作用をもつ活性化プロテインC（APC）によって網膜細胞死が抑制されること、また、網膜血管が再灌流することを明らかにしました。

現在はAPCの薬物治療のメカニズムを解明することを目指しており、有効な投与条件の開発や、全身疾患への応用を目指しています。

### <臨床研究>

AIを搭載した超広角網膜断層・血管撮影装置を用いて、網膜疾患の病勢評価や循環評価を行う研究や、「Heads up surgery」を用いた眼科手術の最適化などの臨床研究を行っています。また、令和4年度から近視進行抑制寄附講座を開設し、現在有効な治療法が確立されていない近視抑制治療に関する研究を進めていきます。

### 【部署からの一言】

大学では専門診療を中心にした外来診療とともに緊急疾患を数多く受け入れております。また、女性医師が多く在籍していることから働きやすい環境作り、若手医師も多いことから教育体制の整備を行っています。学会活動を含めて医局員、皆、日々切磋琢磨しながら診療を行っております。本学の医局員であることを誇れるよう、本講座を益々発展すべく尽力して参ります。



カンファレンスの様子

## ～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

### 糖尿病センター

糖尿病センターは、糖尿病内科を中心に内分泌・代謝内科、眼科、腎臓・リウマチ膠原病内科、血管外科、脳神経外科、循環器内科の先生方だけでなく、看護師を中心とするメディカルスタッフが加わり構成されています。少なくとも現時点では、本当の意味での糖尿病センターと名乗れる程の機能は果たしていませんが、多くの診療科の先生方との連携、また、メディカルスタッフである看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、歯科衛生士及び事務の方々に支えられ、日々の糖尿病診療に従事しています。

ご存知の通り、糖尿病患者さんは増加傾向を辿っています。糖尿病患者さんは様々な合併症を引き起こすことにより、生活の質が低下することが問題と



糖尿病センター構成員

なっています。糖尿病センターでは、糖尿病患者さんを血糖管理という面からだけではなく、多面的に支援することにより、糖尿病患者さんが健康な人と変わらない人生を歩めるようサポートすることに努めております。今後とも宜しくお願い致します。

### 脊椎脊髄センター

脊椎脊髄センターでは、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの一般的な変性疾患はもちろん、希少疾患である脊髄腫瘍、脊髄血管障害、脊椎先天奇形などの全ての脊椎脊髄手術を行っています。また、脊椎脊髄疾患と間違われやすい末梢神経絞扼障害、末梢神経腫瘍などの手術も行っています。

最新機器も導入されており、術中CT (O-arm II) を用いた胸腰椎後側弯変形に対する前後方矯正固定術などの高度の脊椎固定術や、Augmented Reality (AR) navigationという新しい技術を取り入れた難易度の高い脊髄減圧術(頸椎後縦靭帯骨化巣摘出術、黄色靭帯骨化巣摘出術、経椎体椎間孔拡大術、更には再手術症例)にも取り組んでいます。また、外視鏡下手術などにも力を入れています。

高度な医療においては、チーム医療が不可欠で、



脊椎脊髄センター構成員

放射線技師、検査技師などの協力によって支えられています。現在、手術件数が多く大変混みありますが、早期に手術ができるように取り組んでいます。

# 規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

## 就業規則の一部改正等

分院設置に伴う経過措置により旧北斗病院の就業規則等を適用していた職員について、経過措置期間の終了に伴い、本学の就業規則等を適用するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学就業規則
- ・学校法人愛知医科大学給与規程

### 【廃止】

- ・愛知医科大学メディカルセンター就業規則
- ・愛知医科大学メディカルセンター嘱託職員規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター非常勤職員規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター育児又は介護休業等に関する規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター準職員給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター家族手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター住宅手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター通勤手当支給要綱
- ・愛知医科大学メディカルセンター慶弔見舞金規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター退職給与規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター旅費規程
- ・愛知医科大学メディカルセンター職員教育規程

## 「病院事務部事務分掌について」の一部改正

令和4年4月1日付けで「病院事務部事務分掌について」（法人本部長・事務局長裁定）の一部が改正され、総合物流センター事務室が廃止され、用度課に統合されました。

## 「自家用車、レンタカー又はタクシーを利用する出張に関する取扱いについて」の裁定

令和4年4月1日付けで「自家用車、レンタカー又はタクシーを利用する出張に関する取扱いについて」が理事長裁定され、出張に自家用車等を使用する際の取り扱いについて、必要な事項が整備されました。

## ホームページ運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学ホームページ運営委員会規程の一部が改正され、委員会の委員構成が改められました。

施行日は令和4年4月1日

## 人を対象とする医学系研究等に関する倫理規程の一部改正等

メディカルセンターで行う医学系研究等の取り扱い等を明確にするため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年2月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学における人を対象とする医学系研究等に関する倫理規程
- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程

## 診療科の講座化に係る関係規則の整備

病院の診療科のうち、基準を満たしたものを医学部の講座とするため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部の学科目及び講座に関する規程
- ・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程

## 医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、授業科目の並び順及び科目名が改められました。

施行日は令和4年4月1日

## 医学部奨学金貸与規程の一部改正等

医学部における奨学金及び修学資金の返還免除に関する要件等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部奨学金貸与規程
- ・愛知医科大学医学部修学資金貸与規程

## 医学部倫理委員会規程の一部改正

愛知医科大学医学部倫理委員会規程の一部が改正され、委員会の開催要件等が改められました。

施行日は令和4年4月1日

## 看護学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院看護学研究科履修規程の一部が改正され、令和4年度入学生の授業科目等が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

## 看護学部履修規程の一部改正

愛知医科大学看護学部履修規程の一部が改正され、現状に合わせて授業時間が追加されました。

施行日は令和4年4月1日

## 腹部ヘルニアセンター設置に係る関係規則の整備

中央診療部に新たに腹部ヘルニアセンターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年3月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学病院腹部ヘルニアセンター規程
- ・愛知医科大学病院腹部ヘルニアセンター運営委員会規程

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

## NP部設置に係る関係規則の整備

中央診療部に新たにNP部を設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学病院NP部規程
- ・愛知医科大学病院NP部運営委員会規程

### 【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務決裁規程
- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・学校法人愛知医科大学過半数代表者選挙細則
- ・学校法人愛知医科大学管理職手当に関する細則
- ・高度実践看護師（看護師特定能力認証）コース修了者の処遇等について（理事長裁定）
- ・看護学研究科学生に係る入学金の減免について（理事長裁定）
- ・愛知医科大学病院規程
- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程
- ・愛知医科大学病院看護師特定行為管理規程
- ・愛知医科大学病院看護師特定行為管理委員会規程
- ・愛知医科大学病院看護職員奨学金貸与規程

## 医療連携センター運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院医療連携センター運営委員会規程の一部が改正され、委員会の委員構成が改められました。

施行日は令和4年4月1日

## 診療情報の開示に関する規程の一部改正等

診療情報の開示方法及び開示に要する費用を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学病院診療情報の開示に関する規程
- ・診療記録の開示に要する費用の取扱いについて（理事長裁定）

## 医薬品採用等取扱規程の一部改正

愛知医科大学病院医薬品等取扱規程の一部が改正され、本院における医薬品等の採用の手順等が改められました。

施行日は令和4年4月1日

## メディカルセンター部長会規程の制定等

メディカルセンターの基幹会議として部長会を設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年1月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター部長会規程

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター規程

## メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、医療技術部に新たに医療福祉相談室を設置するため、必要な事項が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

## メディカルセンター放射線安全管理規程の制定等

メディカルセンターにおける診療用X線装置の取り扱い等について、必要な事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年2月1日

### 【新規制定】

- ・愛知医科大学メディカルセンター放射線安全管理規程
- ・場所の測定に関する要領
- ・危険時の措置に関する要領
- ・巡視・点検に関する要領
- ・放射線作業に関する要領

## メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）の一部改正等

訪問看護ステーションの人員配置を変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

### 【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）